



TaKaRa

アニュアルレポート 2013



Tradition of
EXCELLENCE,
Future of
INNOVATION

企業理念

自然との調和を大切に、発酵やバイオの技術を通じて
人間の健康的な暮らしと
生き生きとした社会づくりに貢献します。

宝ホールディングスは、酒類・調味料事業を展開する宝酒造グループ、バイオ事業を展開するタカラバイオグループ、健康食品事業の成長を加速させる役割を担う宝ヘルスケアを傘下に置く純粋持株会社として、グループ全社の経営を調整・統括し、最大限の事業成果を追求しています。

この持株会社体制のもと、TaKaRaグループは、酒類・調味料事業を安定的な収益基盤とし、バイオ事業と健康食品事業という有望な将来性のある成長事業を有する、独自の強固な事業ポートフォリオを築いています。

目次

- 2 業績ハイライト
- 4 2013年3月期の主な活動
- 6 TaKaRaグループの中長期戦略
- 8 株主・投資家の皆様へ
- 20 CSR
- 22 コーポレート・ガバナンス
- 26 役員
- 28 事業概要
- 30 連結財務ハイライト
- 32 主要子会社データ
- 33 投資家情報

将来見通しに関する注意事項

この報告書に記載されている、当社および当社グループの現在の計画、見直し、戦略、確信等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、様々な要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

事業構造

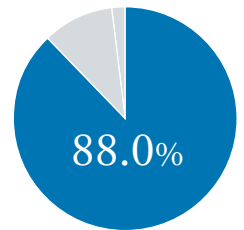
宝ホールディングス

宝酒造グループ

酒類・調味料事業

宝酒造グループは、創業以来続く酒類・調味料事業を展開するTaKaRaグループの中核事業です。170年の長きにわたり、確かな技術に裏付けられた安心できる商品を提供してきました。その商品カテゴリーは、焼酎、清酒、ソフトアルコール飲料、ワイン、ウイスキー、中国酒、調味料、原料用アルコールなど多岐にわたり、日本国内のみならず、米国、中国、欧州の子会社を通じて、グローバルに展開しています。

売上高構成比*

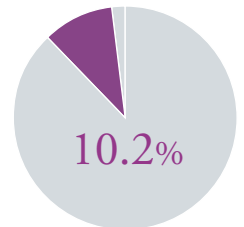


タカラバイオグループ

バイオ事業

タカラバイオグループでは、遺伝子治療などの革新的なバイオ技術の開発を通じて、人々の健康に貢献していきたいと考えています。技術および収益の基盤である「遺伝子工学研究事業」で安定的な収益を稼ぎ出し、「医食品バイオ事業」を第二の収益事業へ育成し、「遺伝子医療事業」に経営資源を投入して遺伝子治療・細胞医療の商業化を目指しています。

売上高構成比*

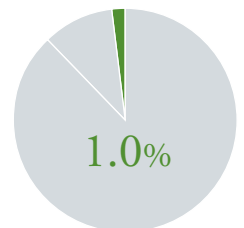


宝ヘルスケア

健康食品事業

宝ヘルスケアは、TaKaRaグループの持つ独自素材や技術を活かした安心・安全な健康食品の販売を通じて、人々の健康で生き生きとした生活を応援しています。タカラバイオが開発した素材で製品開発を行い、マーケティング活動や通信販売を中心とする販売活動を行っています。この一連の取り組みを通じてTaKaRaグループのシナジーを活かし、健康食品事業の成長を加速させています。

売上高構成比*



その他子会社

* 2013年3月期

業績ハイライト

(2013年3月期)

宝ホールディングス

連結売上高 **200,989**百万円
(前期比+1.2%)

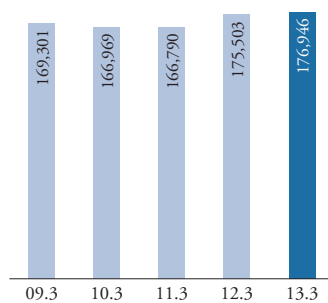
連結営業利益 **9,133**百万円
(前期比-1.4%)

宝酒造グループ

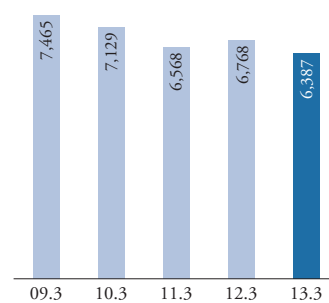
売上高 **176,946**百万円
(前期比+0.8%)

営業利益 **6,387**百万円
(前期比-5.6%)

売上高推移
(百万円)



営業利益推移
(百万円)

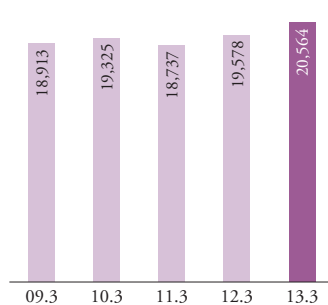


タカラバイオグループ

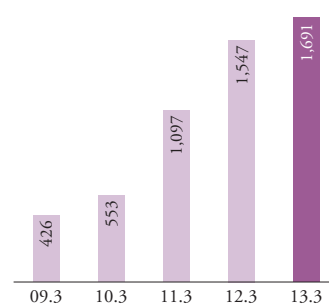
売上高 **20,564**百万円
(前期比+5.0%)

営業利益 **1,691**百万円
(前期比+9.3%)

売上高推移
(百万円)



営業利益推移
(百万円)

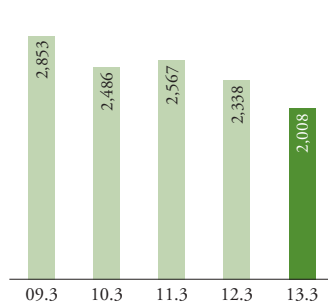


宝ヘルスケア

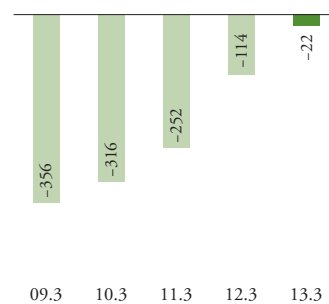
売上高 **2,008**百万円
(前期比-14.1%)

営業損失 **-22**百万円
(前期比92百万円改善)

売上高推移
(百万円)



営業損失推移
(百万円)



業績概況

- 連結売上高は、宝酒造グループおよびタカラバイオグループともに増収となった結果、前期比1.2%増収の200,989百万円と、過去最高かつ初の2,000億円台を記録しました。
- 連結営業利益は、タカラバイオグループで増益となり、宝ヘルスケアで損益改善したものの、宝酒造グループで減益となった結果、前期比1.4%減益の9,133百万円となりました。

業績概況

- 宝酒造グループの売上高は、焼酎とソフトアルコール飲料が減収となったものの、清酒や調味料が増収となったほか、物流部門で新たに連結対象となった子会社の売上が加わり増収となった結果、前期比0.8%増収の176,946百万円となりました。
- 焼酎では、本格焼酎の売上は増加しましたが、飲用甲類焼酎などが減少しました。
- 清酒では、松竹梅白壁蔵「澗」スパークリング清酒、松竹梅「天」などの売上が増加したほか、海外でも順調に売上を伸ばしました。
- 利益面では、原材料価格の高騰などによる原価率の上昇を受けて売上総利益が減益となった結果、営業利益は前期比5.6%減益の6,387百万円となりました。

業績概況

- タカラバイオグループの売上高は、医食品バイオ事業が減収となったものの、遺伝子工学研究事業と遺伝子医療事業が増収となった結果、前期比5.0%増収の20,564百万円となりました。
- 遺伝子工学研究事業では、質量分析装置等の理化学機器の売上は減少しましたが、主力製品である研究用試薬や、研究受託サービス等が増加しました。
- 遺伝子医療事業では、細胞医療用培地・バッグの売上が好調に推移し、売上を伸ばしました。
- 利益面では、売上高の増加に伴って売上総利益が増益となった一方、人件費や研究開発費の増加により販売費及び一般管理費が増加しましたが、営業利益は前期比9.3%増益の1,691百万円となりました。

業績概況

- 宝ヘルスケアの売上高は、フコイダンを中心とするヘルスケア事業が増収となったものの、茶飲料PB供給事業の終了によって、前期比14.1%減収の2,008百万円となりました。
- 利益面では、利益率の高いヘルスケア事業の比率が高まったため原価率は改善しましたが、売上高の減少に伴って売上総利益は減益となりました。一方、販管費及び一般管理費の削減に努めた結果、営業損失は22百万円と前期に比べ92百万円改善しました。

(注) このページに掲載しているセグメント概況は、報告セグメントに関するものであります。報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、最高経営意思決定機関が経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっている「宝酒造グループ」、「タカラバイオグループ」、「宝ヘルスケア」の3つのセグメントで構成されています。なお、P30に掲載している「連結財務ハイライト」では、印刷事業などの機能会社グループの業績や、連結消去などをネットして「その他」に含めて記載しております。

2013年3月期の主な活動

宝ホールディングス

2012年 6月	<ul style="list-style-type: none"> 前社長の犬宮久が会長に、前副社長の柿本敏男が社長に就任し、新経営体制発足
8月	<ul style="list-style-type: none"> 株主還元策として280万株(1,565百万円)の自己株式を取得

宝酒造グループ

2012年 8月	<ul style="list-style-type: none"> タカラ本みりん「醇良」エコパウチを発売
9月	<ul style="list-style-type: none"> 本格焼酎「黒よかいち」エコパウチを発売 松竹梅白壁蔵「澗」スパークリング清酒750mlを発売
10月	<ul style="list-style-type: none"> アジア推進室シンガポール駐在事務所を開設
2013年 3月	<ul style="list-style-type: none"> 本格焼酎「黒よかいち」<とうもろこし>を発売 タカラ can チューハイ「すりおろし」シリーズを発売 松竹梅白壁蔵「澗」スパークリング清酒150mlを発売 ジュレのお酒「果莉那-Carina-」を発売



タカラ本みりん「醇良」エコパウチ



本格焼酎「黒よかいち」<とうもろこし>



松竹梅白壁蔵「澗」スパークリング清酒150ml

タカラバイオグループ

2012年 4月	<ul style="list-style-type: none"> ナチュラルキラー細胞療法の臨床研究を京都府立医科大学で開始
8月	<ul style="list-style-type: none"> 細胞・遺伝子治療用の研究・製造施設を滋賀県草津市に新設することを発表(2015年3月期稼働予定)
10月	<ul style="list-style-type: none"> ES細胞/iPS細胞の未分化(多能性)維持状況を簡便に確認できる試薬(プライマーセット)を発売
11月	<ul style="list-style-type: none"> 細胞医療用抗体等のGMP製造施設を中国子会社(宝日医生物技術(北京)有限公司)に新設することを発表(2014年3月期稼働予定)
12月	<ul style="list-style-type: none"> HIV-1感染症に対する遺伝子治療の第I相臨床試験を米国で開始
2013年 3月	<ul style="list-style-type: none"> 急性骨髄性白血病等を対象としたTCR遺伝子治療の臨床研究実施計画を厚生労働省が了承



プライマーセット



宝日医生物技術(北京)有限公司

トピックス

宝酒造グループ

ジュレのお酒「果莉那-Carina-」を発売

宝酒造は、ジュレのお酒「果莉那-Carina-」を2013年3月に新発売しました。この商品は、当社独自の技術により、これまでにないジュレ感を実現した新感覚のリキュールで、とろっとした口あたりと程よい果実の甘さが特長です。壺を振ってジュレ状にお酒をくずし、ストレートはもちろん、カクテルやデザートのような感覚でも楽しめます。



タカラ can チューハイ「すりおろし」シリーズを発売

宝酒造は、タカラ can チューハイ「すりおろし」シリーズを2013年3月に新発売しました。この商品は、果実入りのすりおろしたような果汁感とすっきりとした甘さが特長で、アルコール度数3%と飲みやすい味わいに仕上がっています。1994年に発売した人気シリーズを幅広いシーンで楽しめるよう、酒質を改めました。



タカラバイオグループ

HIV-1 感染症に対する遺伝子治療の第I相臨床試験を米国で開始

タカラバイオは、米国ペンシルベニア大学およびドレクセル大学と共同で、エイズの原因ウイルスである HIV-1 感染症に対する MazF 遺伝子治療^{*1}の第I相臨床試験を2012年12月に開始しました。

MazF 遺伝子治療は、大腸菌由来の RNA 分解酵素である MazF を利用した HIV 感染症に対する遺伝子治療法です。本臨床試験に使用される MazF レトロウイルスベクターは、タカラバイオの草津事業所内の細胞・遺伝子治療センターで GMP 製造（医薬品の製造管理、品質管理基準に準拠した製造）されました。被験者に投与される遺伝子導入細胞は、ペンシルベニア大学の細胞・ワクチン製造施設において、タカラバイオが供給する MazF レトロウイルスベクターを用いて調製されます。

第I相臨床試験では、被験者は6ヶ月にわたり MazF 遺伝子が導入された自己の CD4 陽性細胞^{*2}の安全性、忍容性、免疫原性について評価されます。タカラバイオは2023年3月期の商業化を目指し、MazF 遺伝子治療の臨床開発を推進していきます。

^{*1} タカラバイオは、大腸菌由来の RNA 分解酵素である MazF を用いた HIV 遺伝子治療（MazF 遺伝子治療）の開発を進めており、これまでにエイズの原因ウイルス（HIV-1）を用いた培養細胞への感染実験により、MazF 遺伝子をヒト T 細胞に導入することによって、細胞に対しては毒性を示すことなく、HIV-1 の複製のみが効果的に抑制されることを発見しています。

^{*2} 細胞表面マーカーである CD4 が陽性である T 細胞のことで、活性化された CD4 陽性細胞は、他の T 細胞の機能を誘導したり、B 細胞に抗体産生を誘導したりし、免疫応答を増強します。HIV は CD4 陽性 T 細胞に感染します。

宝ヘルスケア

宝ヘルスケアは、TaKaRa グループの持つ独自素材や技術を活かした安心・安全な健康食品を、通信販売を通じてお客様へ直接お届けするほか、食品・飲料などの原料として機能性食品素材を B to B で販売するなど、人々の健康で生き生きとした生活を応援しています。TaKaRa グループでは、タカラバイオグループで研究された機能性素材を活用した健康食品を、宝酒造グループのマーケティング・ノウハウを持つ宝ヘルスケアを通じて販売することで、シナジーを活かし、健康食品事業の成長を加速させています。



フコイダンサプリ50



宝ヘルスケアの通販サイト

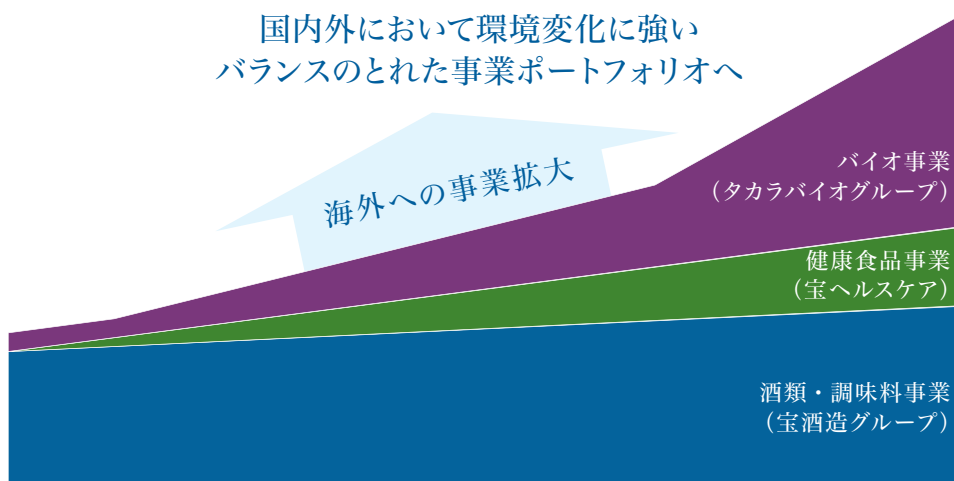
TaKaRaグループの中長期戦略

TaKaRaグループは、長期的な企業価値の向上を目指し、長期経営構想とその実行計画である中期経営計画に基づくグループ経営を進め、着実に事業基盤を拡大してきました。2011年4月からは、新たな長期経営ビジョン「TaKaRaグループ・ビジョン2020」と、その実行計画の第1ステップである「TaKaRaグループ中期経営計画2013」のもと、中長期戦略に基づくグループ経営で、持続的成長を目指しています。

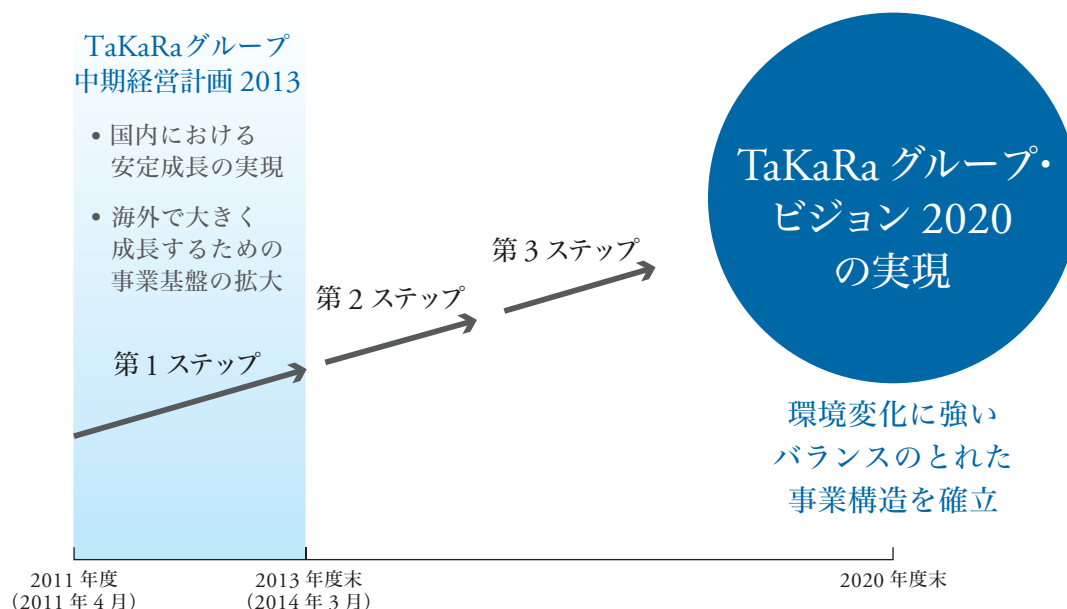
長期経営ビジョン — TaKaRaグループ・ビジョン2020 —

経営目標

国内外の強みを活かせる市場で事業を伸ばし、
環境変化に強いバランスのとれた事業構造を確立する。



「TaKaRaグループ・ビジョン2020」達成へのロードマップ



TaKaRa グループ中期経営計画2013

基本方針

「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の実現に向けて、国内での安定成長を実現するとともに、海外で大きく成長するための事業基盤を拡大する。

事業の位置付けと事業方針

基盤事業

国内酒類事業

中核事業として収益力の強化に取り組み、グループの成長を支える。

成長事業

海外酒類事業、日本食材卸事業

調味料・酒精事業

遺伝子工学研究事業

成長が見込まれる市場で、積極的に事業拡大を図り、グループ全体の成長を牽引する。

育成事業

健康食品事業

遺伝子医療事業

成長が見込まれる市場で、次期の成長事業化を目指し、事業基盤の確立に取り組む。

風土・人財の育成

グループ経営基盤の強化

社会・環境行動の推進

財務方針

健全な財務体質を維持しながら、成長・育成事業への投資と、積極的な株主還元を実施し、ROE（自己資本利益率）の向上を目指す。

最終年度（2014年3月期）の定量目標

売上高および営業利益

連結売上高

2,000億円以上
(2011年3月期対比5.4%増)

連結営業利益

100億円以上
(2011年3月期対比20.0%増)

海外売上高

売上高

200億円以上
(2011年3月期対比35.9%増)

対連結売上高比率

10%以上
(2011年3月期対比+2.2%)

成長事業および育成事業の売上高

売上高

500億円以上
(2011年3月期対比25.3%増)

対連結売上高比率

25%以上
(2011年3月期対比+4.0%)

株主・投資家の皆様へ



柿本敏男

宝ホールディングス株式会社
代表取締役社長

めまぐるしく変化する事業環境の中で、
 当社は、独自の技術力で差異化された商品・サービスの
 提供を通じて企業価値の向上に取り組んでまいります。

2013年3月期の業績

連結業績

2期連続で過去最高売上高を更新

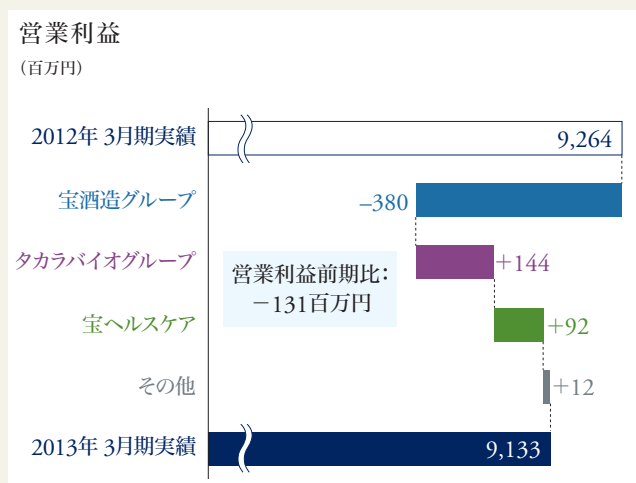
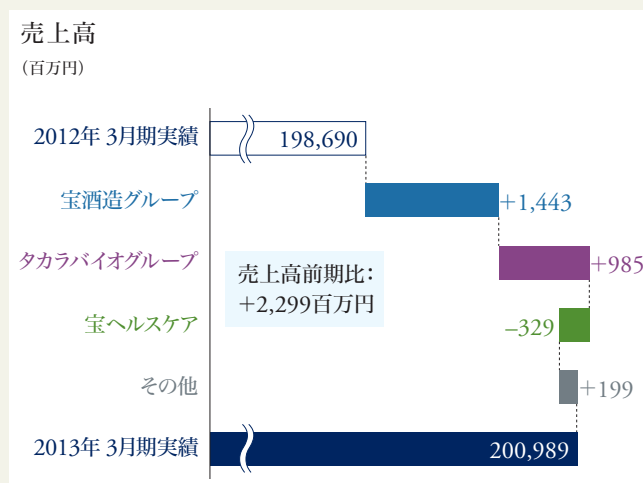
2013年3月期(以下、当期)の日本経済は、長く続いた円高局面からの転換や株式市場の復調などにより、景気回復への期待感が高まっています。個人消費については底堅さを維持していますが、依然としてデフレ傾向は続いています。

このような事業環境の中、当期の当社グループの連結業績は、宝酒造グループ・タカラバイオグループともに増収となったことで、連結売上高は前期比1.2%増収の2,009億89百万円と、過去最高を記録した前期をさらに上回る結果となりました。

一方、営業利益については、タカラバイオグループは増益となりましたが、宝酒造グループは減益となり、連結営業利益は前期比1.4%減益の91億33百万円となりました。当期純利益については、固定資産売却益などの特別利益の増加や、税金費用の減少を受け、前期比17.3%増益の46億87百万円となりました。

以下で各事業グループについてご説明いたします。

2013年3月期連結業績の増減要因

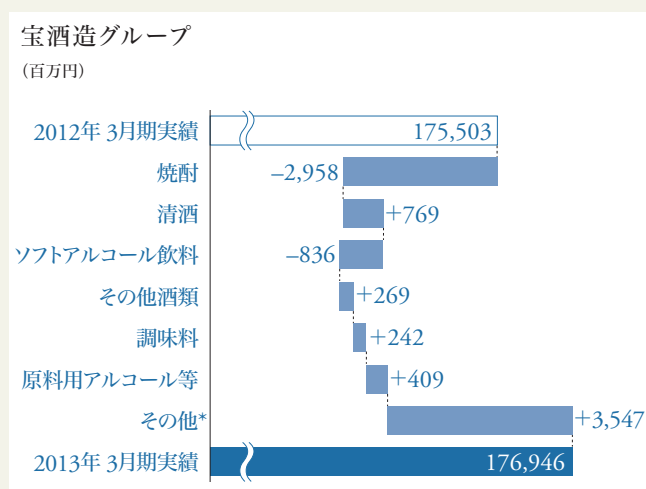


宝酒造グループの業績

原価率の上昇に伴い、営業利益は減益

宝酒造グループでは、焼酎やソフトアルコール飲料が減収となりましたが、清酒や調味料が増収となったほか、新たに連結子会社が加わった物流部門で増収となりました。さらに、日本食材卸事業のフーデックス社（仏国）の売上高が円高ユーロ安にも関わらず円貨でも大幅に増加し、宝酒造グループの売上高は前期比0.8%増収の1,769億46百万円となりました。

2013年3月期の売上高増減要因



*「その他」には物流事業 (+3,069)、日本食材卸会社フーデックス (+578) が含まれます

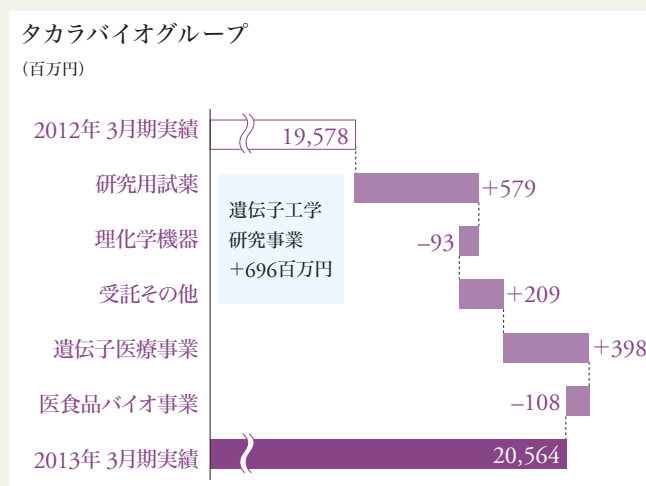
酒類カテゴリー別の販売動向についてご説明いたしますと、焼酎につきましては、「黒よかいち」や「琥珀のよかいち」が伸長した本格焼酎の売上は伸びましたが、ボリュームゾーンである甲類焼酎が市場の趨勢の影響を受けたこともあって減少しました。清酒については、市場が縮小する中で、松竹梅「天」やスパークリング清酒の松竹梅白壁蔵「澗」を中心に売上を拡大することができました。また、ソフトアルコール飲料については、TaKaRa「焼酎ハイボール」の売上が前期に引き続き伸長しましたが、タカラCANチューハイ「直搾り」が前期の震災による特殊要因の反動もあって減少しました。

一方、利益面では、原材料価格が高含みに推移したことなどによって原価率が上昇し、その結果、営業利益は前期比5.6%減益の63億87百万円となりました。

タカラバイオグループの業績

営業利益は4期連続増益となり、3期連続で過去最高益を更新

2013年3月期の売上高増減要因



タカラバイオグループでは、主力の研究用試薬が日本・中国・インドなどの地域で伸長して遺伝子工学研究事業が増収となったほか、細胞医療用培地・バッグの売上が好調に推移した遺伝子医療事業も増収となり、売上高は前期比5.0%増収の205億64百万円となりました。売上高の増加に伴い、営業利益は前期比9.3%増益の16億91百万円と、4期連続で増益となり、3期連続で過去最高益を更新しました。



宝ヘルスケアの業績

ヘルスケア事業の増収により、営業損失は改善

宝ヘルスケアでは、フコイダンを中心とするヘルスケア事業は増収となりましたが、茶飲料PB供給事業の終了に伴い、売上高は前期比14.1%減収の20億8百万円となりました。利益面では、利益率の高いヘルスケア事業の比率が高まったため原価率が改善し、加えて徹底したコスト削減活動により販売費及び一般管理費が減少したため、営業損失は22百万円と、前期に比べ92百万円の改善となりました。

TaKaRaグループ中期経営計画2013の進捗

売上高、営業利益の数値目標

1年前倒しで売上高2,000億円を達成

当社は、2011年4月に策定した10年間の長期経営ビジョン「TaKaRaグループ・ビジョン2020」（以下、長期ビジョン）の実現に向けた第1ステップである3ヵ年の「TaKaRaグループ中期経営計画2013（以下、中計2013）」に基づき、具体的な取り組みを進めています。

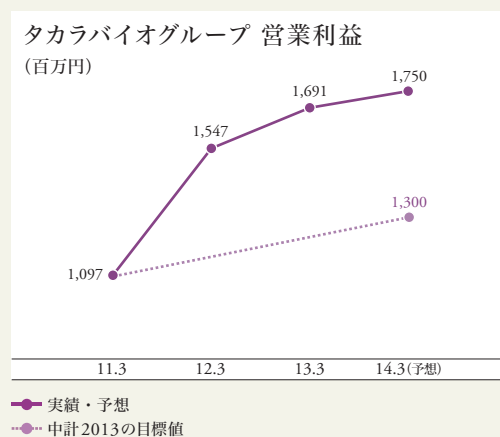
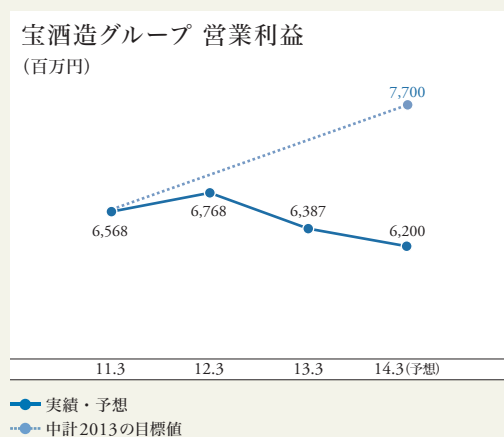
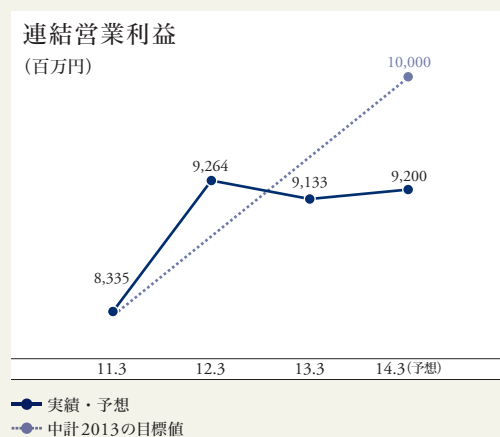
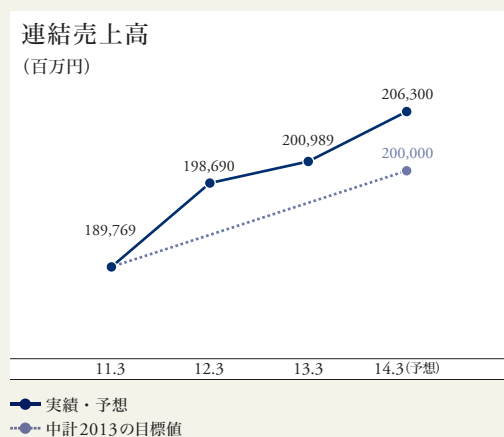
中計2013では、「国内における安定成長の実現」と「海外で大きく成長するための事業基盤の拡大」を基本方針に掲げており、最終年度（2014年3月期）の定量目標として、連結売上高2,000億円以上、連結営業利益100億円以上を目指しています。この定量目標に対する進捗状況をご説明いたしますと、売上高については、当期に計画を1年前倒しで達成しました。一方、営業利益については、計画を下回って進捗して

おり、現在の事業環境を鑑みると最終年度である2014年3月期（以下、次期）の業績予想において100億円を掲げられない厳しい状況になっておりますが、目標達成に向け、さらに努力を重ねてまいります。

事業グループ別にみますと、タカラバイオグループは初年度（2012年3月期）に計画を既にクリアしておりますが、宝酒造グループは計画を下回っております。この要因としては、長引くデフレや原材料価格の高騰、さらには円安に伴う輸入原材料価格の上昇など、中計2013の立案時に想定していた以上に、宝酒造グループを取り巻く環境が厳しくなっているという外部要因もございますが、差異化された商品の開発・育成による国内酒類事業の収益力強化、および海外事業などの伸ばすべき事業の育成において、さらなるスピードアップが必要であると認識しております。

長期ビジョンに掲げる「国内外の強みを活かせる市場で事業を伸ばし、環境変化に強いバランスのとれた事業構造を確立する」という経営目標の実現に向けて、これらの取り組みをさらに加速させてまいります。

中計2013 定量目標との比較



宝酒造グループの収益拡大に向けて

国内酒類事業の収益力を強化

国内酒類事業の基本戦略は、新商品の開発・ブランドの育成・収益力の強化を三本柱に、安定的なキャッシュ・フローを生み出すことです。

国内酒類事業の収益力を強化するためには、「商品力の強化」が欠かせないと考えております。「商品力」とは、「技術力」、「商品開発力」、「育成功力」であり、独自の技術で、お客様に支持される差異化された商品を開発し、それを粘り強く育成するということです。

国内は人口減少に伴って酒類市場が縮小傾向にあり、さらにはデフレに伴う低価格志向が定着するなど、国内酒類事業を取り巻く環境は非常に厳しいものとなっております。しかしながら、このような環境においても、スパークリング清酒の松竹梅白壁蔵「滯」のような、明確に差異化された、お客様に支持される品質を持つ新商品をご提案することで、市場が縮小する清酒カテゴリーにおいても売上を伸ばすことができるという実例がございます。

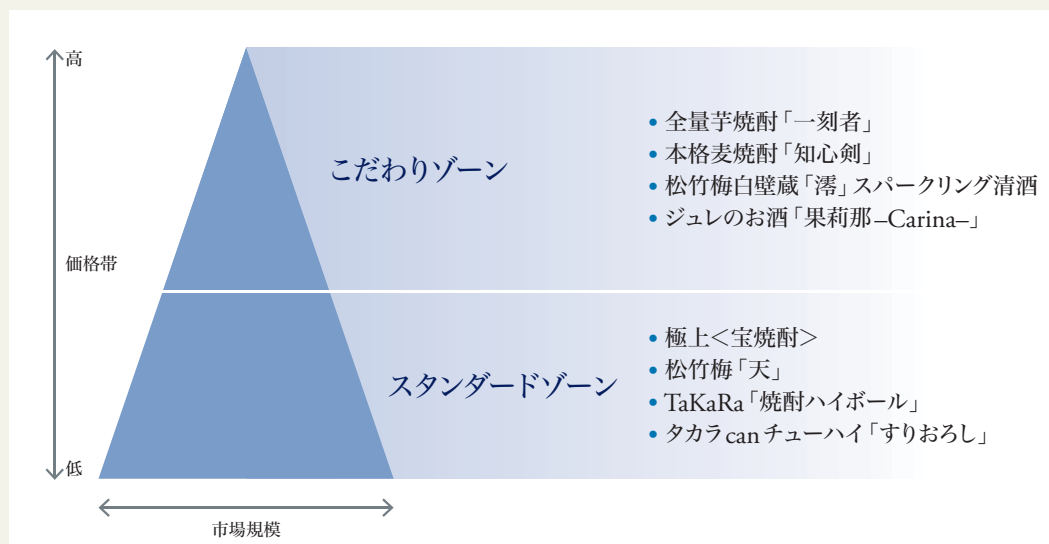
中計2013の最終年度となる次期は、特に清酒とソフトアルコール飲料で売上を伸ばし、長期ビジョンの実現に向けた第2ステップとなる次の中期経営計画に繋がる1年にしてまいります。

国内酒類事業の基本戦略

新商品の開発	ブランドの育成	収益力の強化
差異化品質を持った オリジナリティーのある 新商品の開発	こだわりゾーンと スタンダードゾーンの双方で 多数の強いブランドを育成	利益マネジメントの強化と 業務効率化の推進

安定的なキャッシュ・フローを生み出し、グループの成長を支える

宝酒造の商品戦略



具体的には、清酒では、松竹梅白壁蔵「滯」の育成に引き続き注力するとともに、ソフトアルコール飲料では、新商品のジュレのお酒「果莉那-Carina-」とタカラcanチューハイ「すりおろし」シリーズを早期に育成してまいります。これらの商品に注力する狙いは、宝酒造グループが得意としている、お酒をよく飲まれるヘビーユーザーだけでなく、ライトユーザーのニーズにもお応えする商品をご提案することで、当社にとっての新たな市場を開拓していくことにあります。このような取り組みを通じて、縮小する国内酒類市場においても収益を拡大することができると考えております。

当社グループの酒造りの歴史は、江戸時代後期の1842年に始まりました。以来、170年の長きにわたり一貫して品質の向上や安心・安全な商品の提供に努め、お客様に愛される数多くのブランドを生み出してきました。これを脈々と続けること、さらに商品開発をスピードアップし、適切なタイミングで新商品を上市することによって、国内酒類事業の収益力を強化し、安定的な収益基盤を構築することができると確信しております。

海外事業の成長を加速

宝酒造グループの収益拡大に向けて、国内酒類事業の収益力強化と同様に重要視しているのが、海外での事業展開です。

宝酒造グループでは、海外で清酒やみりんを製造・販売する海外酒類事業と、欧州で日本食材の輸入卸を行う日本食材卸事業のそれぞれを拡大し、日本食文化を世界に広めることを通じて、海外事業全体を拡大することを目指しています。

欧州で日本食材卸事業を行うフーデックス社の株式を取得した2011年3月期以降、宝酒造グループの海外売上高は順調に拡大しており、当期は100億円という一つの節目をクリアいたしました。次期は、118億円に伸ばす計画をしており、タカラバイオグループと合わせて、当社グループの海外売上高比率は、中計2013の目標である10%を超える見込みとなっております。



しかしながら、為替変動の影響による輸入原材料価格の変動を考慮すると、まだ海外事業の規模としては不十分であると考えております。現状では、円安による輸入原材料価格の上昇を海外事業の利益でカバーできておらず、「環境変化に強いバランスのとれた事業構造」になっているとは言えない状況であります。

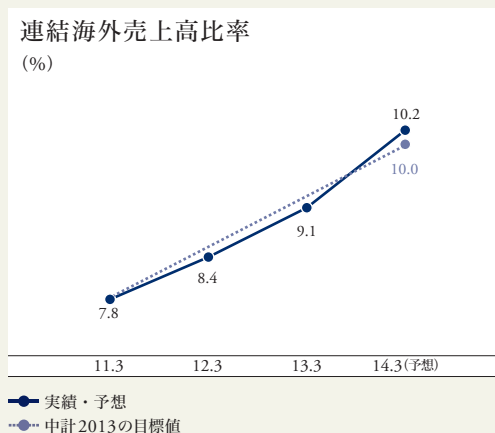
タカラバイオグループの海外売上高比率は既に40%程度となっておりますので、宝酒造グループの海外事業の成長を加速し、海外売上高比率を高めることが、宝酒造グループの収益拡大に繋が

るだけでなく、当社グループ全体の海外売上高比率の上昇に繋がり、「環境変化に強いバランスのとれた事業構造」の確立が可能になると考えております。

宝酒造グループの海外事業における一番の課題は販路の開拓です。海外では地域ごとに流通形態が異なり、日本のように全国規模の販売網が整備されているわけではありません。地域ごとに存在するエージェントの協力を得る必要があるため急激な成長は難しい状況ですが、着実に販路を築いていくことが重要です。フーデックス社のように、当社グループの事業とのシナジー効果が期待できる企業があれば、M&Aなども積極的に視野に入れて事業拡大に備えたいと考えております。

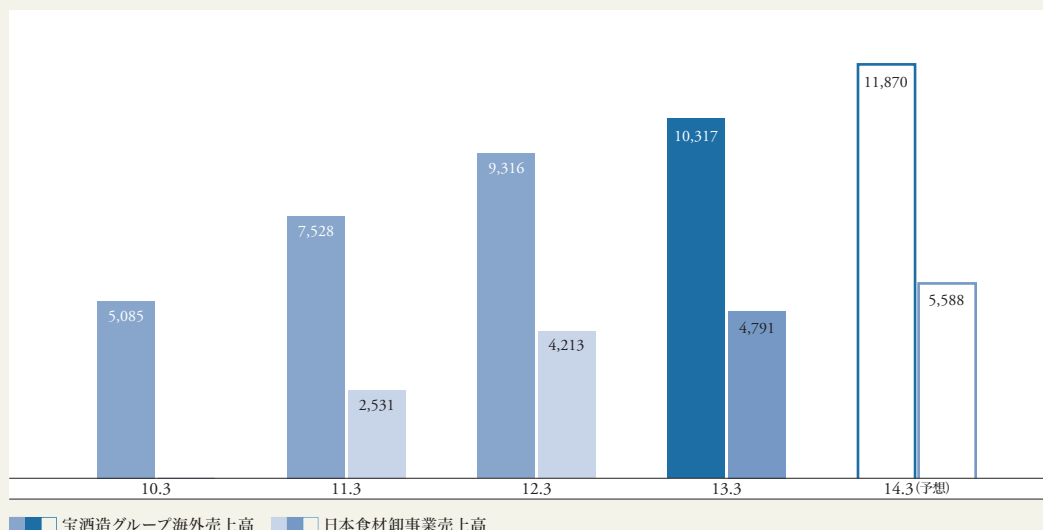
また、足元で特に注力していくのはヨーロッパですが、同時に中国、アメリカ、東南アジアとそれぞれの地域に即した販売戦略を基に、まずは日本食文化の浸透とともに宝酒造ブランドの認知度を上げ、売上拡大に繋げていきます。その一環として、当期はシンガポールにも拠点を設け、市場調査を開始しています。東南アジアでは、国ごとに税率や法制度が異なるため、困難な面もありますが、積極的に営業活動を展開していきます。

中計2013 定量目標との比較



宝酒造グループ 海外売上高推移

(百万円)



タカラバイオグループのさらなる成長に向けて

日本政府の方針を追い風に事業を拡大

タカラバイオグループでは、中計2013の営業利益目標を初年度にクリアし、その後も順調に収益を拡大していますが、長期ビジョンの実現に向けて、さらなる成長が必要となります。

タカラバイオグループを取り巻く環境は、バイオの技術が日進月歩で発展し、常にバイオテクノロジー研究の先端を捉えた商品・サービスを提供していかなければならないという厳しさはあるものの、世界的にバイオテクノロジー研究のニーズが高まっていることや、日本政府が再生・細胞医療の開発を広く支援する政策を打ち出していることなど、タカラバイオグループにとって追い風になると考えられる環境でもあります。

日本政府は、再生・細胞医療の基礎的・臨床的開発のための研究資金を大幅に増加させることを打ち出しており、さらに、国会や関係省庁で審議されている政策の中で、先端医療分野における新薬の早期承認制度の実現および細胞加工の外部委託の実現等が議論されています。

先端医療の普及を推進するという政府方針や、先端医療分野の研究支援（研究費）の増加は、基礎研究および臨床研究分野に製品・サービスや技術提供を行っているタカラバイオグループにとって追い風になると考えております。また、細胞加工の外部委託が実現すれば、遺伝子導入細胞をGMP（医薬品の製造管理、品質管理基準）製造する技術を有し、がん免疫細胞療法を実施する医療機関向けに技術支援サービス（細胞培養・加工）を実施しているタカラバイオグループにとっては、ビジネスチャンスの拡大となります。

さらに、新薬の早期承認制度が遺伝子治療・細胞医療にも適用されれば、タカラバイオが行う臨床開発プロジェクトの商業化までの期間が短縮できる可能性があります。

1979年に国産初の制限酵素を発売したことから始まったタカラバイオグループ（当時は寶酒造（株）（現・宝ホールディングス（株））のバイオ事業としてスタート）は、市場のニーズにマッチした研究用試薬、理化学機器、受託サービスを次々と生み出し、今や遺伝子医療分野にまで事業領域を拡大しております。昨今の事業環境を見ましても、タカラバイオグループの事業戦略は正しかったと実感しておりますので、当社グループの成長を牽引する事業として、さらなる事業拡大に取り組んでまいりたいと考えております。

遺伝子医療の臨床開発スケジュール

治療	前臨床試験 / 臨床研究	第1相臨床試験	第2相臨床試験	第3相臨床試験	商業化
がん治療薬 HF10			米国・治験 (2014年3月期終了予定)		2019年3月期
		国内・臨床研究 三重大学 (2015年3月期終了予定)			
		国内・臨床研究 名古屋大学 (2015年3月期終了予定)			
HSV-TK遺伝子治療		日韓共同治験 (2016年3月期開始予定)			2020年3月期
		国内・臨床研究 ハプロadd-back (2015年3月期終了予定)			
TCR遺伝子治療		国内・治験 MAGE-A4 (2014年3月期開始予定)			2022年3月期
		国内・臨床研究 MAGE-A4・前処置 (2016年3月期終了予定)			
		国内・治験 NY-ESO-1 (2015年3月期開始予定)			
		国内・臨床研究 WTI (2016年3月期終了予定)			
MazF遺伝子治療			米国・治験 (2016年3月期終了予定)		2023年3月期

→ 臨床試験 → 臨床研究

次期の見通しと株主還元策

次期の見通し

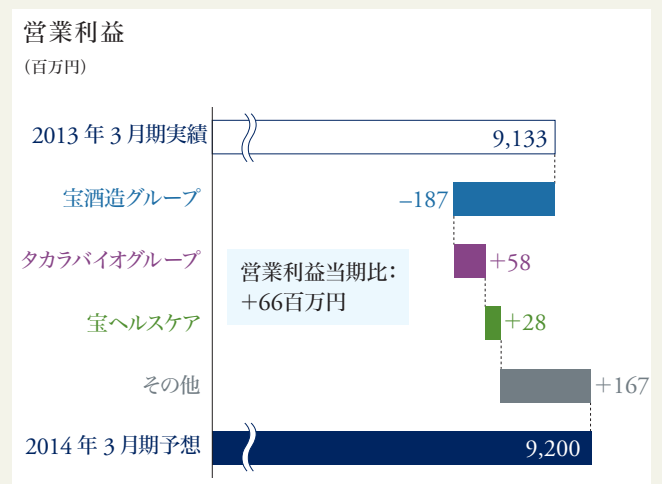
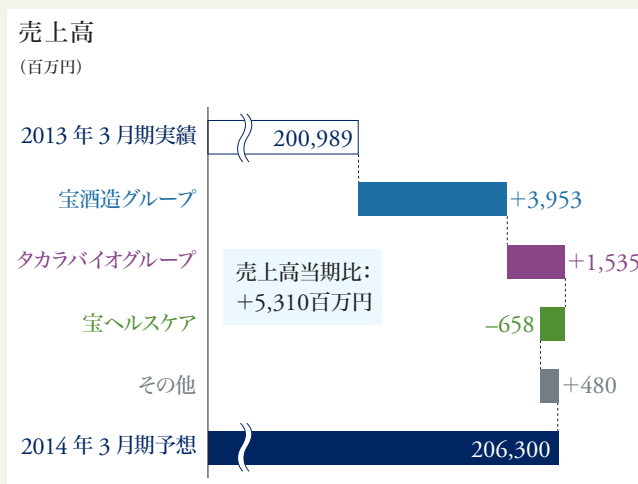
宝酒造グループは減益予想も、タカラバイオグループで増益、宝ヘルスケアで黒字化し、連結営業利益は増益の予想

宝酒造グループでは、好調に推移するスパークリング清酒の松竹梅白壁蔵「滯」や、エコパウチが好評の松竹梅「天」などの清酒で増収を見込むほか、2013年3月に発売したジュレのお酒「果莉那-Carina-」やタカラcanチューハイ「すりおろし」シリーズといった新商品が寄与するソフトアルコール飲料で増収を見込んでおり、売上高は当期比2.2%増収の1,809億円を計画しております。一方、利益面では、円安による輸入原材料価格の高騰や、新商品育成のための販売促進費の増加によって、営業利益は当期比2.9%減益の62億円を見込んでおります。



タカラバイオグループでは、遺伝子工学研究事業において、日本を含めて全世界で増収を見込むほか、遺伝子医療事業において、細胞医療用培地・バッグの売上拡大を見込んでおり、売上高は当期比7.5%増収の221億円を計画しております。利益面では、研究開発費を中心に販売費及び一般管理費が増加する見込みですが、営業利益は当期比3.5%増益の17億50百万円を計画しております。

2014年3月期連結業績（予想）の増減要因



宝ヘルスケアでは、茶飲料PB供給事業の終了により、売上高は当期比32.8%減収の13億50百万円を見込んでおりますが、ヘルスケア事業の売上は伸ばす計画であり、これによって初の単年度黒字化を目指します。

以上の結果、次期の当社グループの連結業績予想につきましては、売上高が当期比2.6%増収の2,063億円、営業利益が当期比0.7%増益の92億円としております。

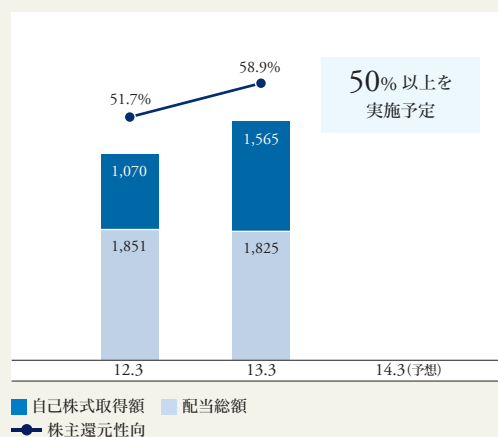
株主還元策

次期も株主還元性向50%以上を実施

当社は、安定的な配当の継続を基本に業績連動の要素も加味し、配当と資本効率の向上に資する自己株式取得を合わせて実施しております。

中計2013では、配当総額と自己株式取得総額の合計で株主還元性向50%以上となる積極的な株主還元策の実施を財務方針に掲げており、前期・当期ともにこれを実施してまいりました。次期におきましても、1株当たり9円の配当と合わせ、自己株式取得も実施することで、株主還元性向50%以上を実施してまいります。

株主還元状況
(百万円)



中計2013の財務方針

健全な財務体質を維持しながら、成長・育成事業への投資と、積極的な株主還元を実施し、ROE(自己資本利益率)の向上を目指す。

健全な財務体質の維持	格付「シングルA」の維持
成長・育成事業への投資	成長事業と育成事業に対して優先的に投資
積極的な株主還元	配当と自己株式取得を合わせ株主還元性向*1 50%以上を実施

*1 株主還元性向

株主還元総額(配当総額+自己株式取得総額)/みなし連結当期純利益*2 ≥ 50%

*2 みなし連結当期純利益

(連結経常利益-受取利息・配当金+支払利息) × (1-法定実効税率)



社長就任後の1年を振り返って

「商品力の強化」に繋がる「企業風土の醸成と人財の育成」に取り組んでいます

入社以来、長らく技術・生産畑を歩み、新商品の開発や品質向上に努めてきた私に課せられた使命の一つは、言うまでもなく「商品力の強化」です。「商品力の強化」につきましては、先ほども述べましたので、ここではもう一つの使命であると考えている「企業風土の醸成と人財の育成」について、私の考え方を申し述べたいと思います。

当社グループは、常に新たな商品・サービスを開発し、お客様に提供しておりますが、型にはまった考えでは、新しいアイデアを生み出し、差異化された商品・サービスを開発することはできません。このような商品・サービスを創造するには、常にお客様の嗜好や市場のトレンドを読み、柔軟な発想でひらめきと新しい技術を結びつけなければなりません。さらに、それらを然るべきタイミングで上市することが重要です。私は経験上、これらのヒントはすべて現場にあると考えております。

私自身、分からないことがあれば直接従業員に聞きに行くようにしています。元来、当社グループには、こうした対面のコミュニケーションを重視する企業風土がありますが、最近ではさらに活発な意見交換がなされていると感じています。こうした企業風土を醸成することで、従業員同士で刺激を与え合い、人財が育成されると考えております。さらには、活発なコミュニケーションを通じて新しいひらめきが生まれ、それが独自の技術力と結びつき、他社には真似のできない商品・サービスに繋がると信じています。

今後も「現場の感覚」を忘れずに、独自の技術で差異化された商品・サービスを開発し、お客様に提供することを通じて、企業価値の向上に取り組んでまいります。株主・投資家の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

CSR

TaKaRaグループは、安心・安全な商品やサービスをお届けするとともに、医療の進歩に貢献し、人々の暮らしを豊かなものにしていくことで、様々なステークホルダーの期待に応えていきます。

CSR活動の基本方針

TaKaRaグループは、社会の一員として企業理念に則り、本業の事業活動を通じて社会に貢献していくことをすべての基本としています。国内外を問わず様々な環境変化が予想される中、グループ全体の企業価値向上を実現していくためには、成長戦略と一体化したCSR活動の強化が不可欠であると考えています。

こうした認識のもと、「TaKaRaグループ中期経営計画2013」では、国内外のグループ会社一体となったコンプライアンス体制の構築に加え、生物多様性保全の推進、CO₂排出量削減などの環境活動の強化、グループ全体の成長に不可欠な風土・人財の育成など、CSR活動をグループ全体でより一層強化していくことを定めました。

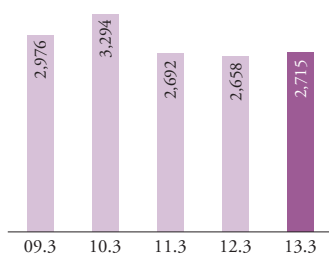
CSR活動の重点分野

TaKaRaグループは、安心・安全な商品やサービスを提供し続けることが最も重要なCSR活動であると考えています。こうした商品やサービスを通じて、人々の暮らしを豊かなものにするとともに、環境保全などを通じて社会に貢献しながら、グループの持続可能な成長の実現を図っています。

研究開発費構成



タカラバイオグループの研究開発費推移
(百万円)



TaKaRaグループのCSR活動

主要なCSR活動は、グループ全体の売上の約90%を占める宝酒造グループの取り組みが中心となっています。宝酒造グループの主要事業である酒造りは、穀物や水など自然の恵みのもとに、微生物という自然の働きによって行われます。酒造りは、こうした自然の力を借りて初めて行うことができるため、「自然との調和」を第一に掲げ、自然環境に配慮した活動を展開しています。加えて、酒類を販売する企業にとって避けて通れない空容器問題や、適正飲酒の啓発活動もまた、CSR活動の重要課題であると認識しています。

一方で、グループ全体の研究開発費の約90%を占めるタカラバイオグループは、革新的なバイオ技術を通じ、がん領域やエイズといったアンメット・メディカルニーズの高い疾病を対象とした遺伝子治療や細胞医療という先端医療技術の開発や商業化を進めています。タカラバイオでは、これらの研究開発について、生命倫理の観点からも適正に実施していきます。

外部機関からの評価

SRI (社会的責任投資) インデックスへの組み入れ

「FTSE4Good Index Series」は、英国のFTSE社（ロンドン証券取引所が全額出資する子会社）が、世界25カ国・約2,400社の上場企業を組み入れ対象企業として調査し、環境・社会に関する国際基準に達した企業銘柄を選定したものです。

当社は、環境に配慮した事業の取り組みや社会貢献活動が評価され、構成銘柄の一つとしてSRIインデックスに組み入れられています。



重点分野の具体的な取り組み

品質と安全：品質管理（宝酒造）

宝酒造は、食の安心・安全に対するニーズに応えるため、確かな品質管理体制のもと、商品企画から製造・出荷に至るまでを実施しています。さらに、お客様に正確な情報をお伝えするため、事前審査のうえ、原材料・栄養成分などをラベルに表示しています。



品質と安全：誤飲防止（宝酒造）

宝酒造は、目の不自由な方の誤認飲酒を防止するため、1995年に国内で初めて缶チューハイの缶ぶたに点字で「おさけ」の表示を入れ、2002年には、やはり国内で初めて紙バック酒類のキャップに同様の点字表示を行いました。



品質と安全：適正飲酒（宝酒造）

宝酒造は、酒類を販売する企業の重要な社会的責任として、「ルールを守った節度ある飲酒」を呼びかける様々な活動を行っています。お酒の正しい知識や飲み方をまとめた冊子「お酒おつきあい読本」を発刊しているほか、1995年からは未成年者飲酒、飲酒運転防止のための注意表示を酒類製品に表示しています。



生命倫理と安全：倫理面・安全面の審査（タカラバイオ）

タカラバイオでは、ヒト由来の組織・細胞・臨床材料・ゲノム・遺伝子等を用いた研究開発事業、これらを用いた遺伝子検査・受託業務に関する事業およびヒト組織・細胞製品の供給に関する事業等を行っています。これらの事業活動を行ううえで、関連法規の遵守はもとより、人権の尊重ならびに当該事業活動を通じた社会貢献が適切に行われることが重要であると認識し、「生命倫理・安全規程」を定め、社内に設置した生命倫理委員会の審査を厳格に行っています。

環境保全：4Rの推進（宝酒造）

酒類業界にとって、酒類などが消費された後に発生する空容器処理は重要な問題です。宝酒造では、新たな容器の発生を回避する「はかり売り」を実施するなど、容器の4R（リフューズ：発生回避、リデュース：減量化、リユース：再利用、リサイクル：再資源化）を推進しています。



社会貢献：環境啓発活動（宝ホールディングス・宝酒造）

宝ホールディングスでは、公益信託「タカラ・ハーモニストファン」を1985年に設立し、以降毎年、自然環境保護活動や研究に地道に取り組む団体や個人に対して助成活動を行っています。第1回からの助成先数は延べ301件、助成金累計は約1億4,500万円になりました。

また、宝酒造では、2004年から、次世代を担う子供たちに自然の尊さや生物多様性の大切さを伝える「宝酒造 田んぼの学校」を開校し、環境教育を実施しています。この取り組みが評価され、2011年には公益社団法人日本フィランソロピー協会が主催する第9回企業フィランソロピー大賞において「特別賞」を受賞しました。



宝酒造におけるCSR活動は、以下のホームページおよび「緑字企業報告書」でご確認いただけます。

<http://www.takarashuzo.co.jp/environment/index.htm>

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

当社グループでは、コーポレート・ガバナンスの充実を、持続的な企業価値向上のための重要な経営課題と捉え、以下の基本的な考え方のもと、その充実に努めています。

当社グループ全体の企業価値向上のために、

- ① グループ各社に権限を委譲し、自立経営のもと事業の展開スピードをあげ、各社において企業価値向上を追求する。
- ② 会議体の定期的な運営等を通じ、各社の事業報告や今後の経営方針・事業戦略について意見交換しあえる風土を維持することで、グループ全体の企業価値向上を追求する。
- ③ 法令遵守の姿勢や倫理性を確保し、コンプライアンス体制を維持することで、グループ全体での企業の社会的責任を果たす。
- ④ オープンかつタイムリー、そして正確な情報開示を継続し、適時開示に対する社内体制を維持することで、経営の透明性を高める。

コーポレート・ガバナンス体制について

当社は監査役設置会社であり、2013年6月27日現在、監査役会は5名（うち3名は社外監査役）で構成されています。また、取締役会は9名で構成されており、うち1名は社外取締役です。

この体制下において、監査役監査に加え、株主を含むすべてのステークホルダーの視点に立脚する幅広い見識をもった独立性の高い社外取締役が、監査役会や内部統制担当役員と連携を図り業務執行の監査・監督に関与することで、経営に対する監督機能を強化しています。

また、持株会社として、グループ各社の独自性・自立性を維持しつつ、グループ全体の企業価値の最大化を図ることを目的に「グループ会社管理規程」を制定し、「グループ戦略会議」、「マザー協議連絡会議」、「タカラバイオ連絡会議」、「宝ヘルスケア戦略会議」、「機能子会社協議連絡会議」を通じて重要案件の事前協議や報告を義務付けています。

監査役監査、内部監査および会計監査について

当社の監査役は、取締役会等の重要会議への出席や業務・財産および重要書類の調査ならびに必要なに応じて担当取締役および担当者への聞き取り調査等を実施し、これらを通じて、取締役の職務執行の監査を行っています。内部監査については、被監査部門から独立した監査室を設置し、「内部監査規程」に基づく内部監査を実施して必要な対策を講じることにより、職務執行の適正確保に努めています。なお、監査室、監査役会および会計監査人は、監査計画・監査方針・監査実施状況に関して定期的に情報・意見交換、協議を行う等、相互連携を図っています。

コーポレート・ガバナンスに重要な影響を与える特別な事情 当社の上場子会社タカラバイオ株式会社について

2013年3月31日現在、当社は、タカラバイオ株式会社（東証マザーズ、コード番号4974）の議決権の70.4%を所有する親会社であり、当社と同社の関係は以下の通りです。

① 当社グループにおけるタカラバイオ株式会社の位置付け

タカラバイオ株式会社は、2002年4月1日に、物的分割の方法により当社の100%子会社として設立しました。その後、当社の議決権所有比率は、同社による第三者割当増資、公募増資、新株予約権付社債の発行等により、現在の議決権所有比率となっています。

2013年3月31日現在、当社グループは、純粋持株会社である当社、子会社38社および関連会社3社で構成され、その中でタカラバイオ株式会社はバイオテクノロジー専門の事業子会社として位置付け、当社グループとしてバイオ事業を推進しています。

② 当社のグループ会社管理について

タカラバイオ株式会社についても、前述の「グループ会社管理規程」を適用し、同社の取締役会において決議された事項等の報告を受けていますが、取締役会決議事項の事前承認等は求めておらず、同社が独自に事業運営を行っています。

また、「グループ戦略会議」、「タカラバイオ連絡会議」等の会議体では、必要に応じてタカラバイオ株式会社の代表取締役、役員、執行役員等の出席を求めています。これらの会議体は、グループ全体の方針についての討議や、グループ会社間の報告を目的としたものであり、同社の自主性・独立性を妨げるものではありません。

当社株券等の大規模な買付行為に対する対応方針 (買収防衛策) について

当社は、2006年5月15日の当社取締役会決議により、企業価値、ひいては、株主の皆様との共同の利益を確保し、または向上させることを目的に、「当社株券等の大規模な買付行為に対する対応方針（買収防衛策）」を導入しました。

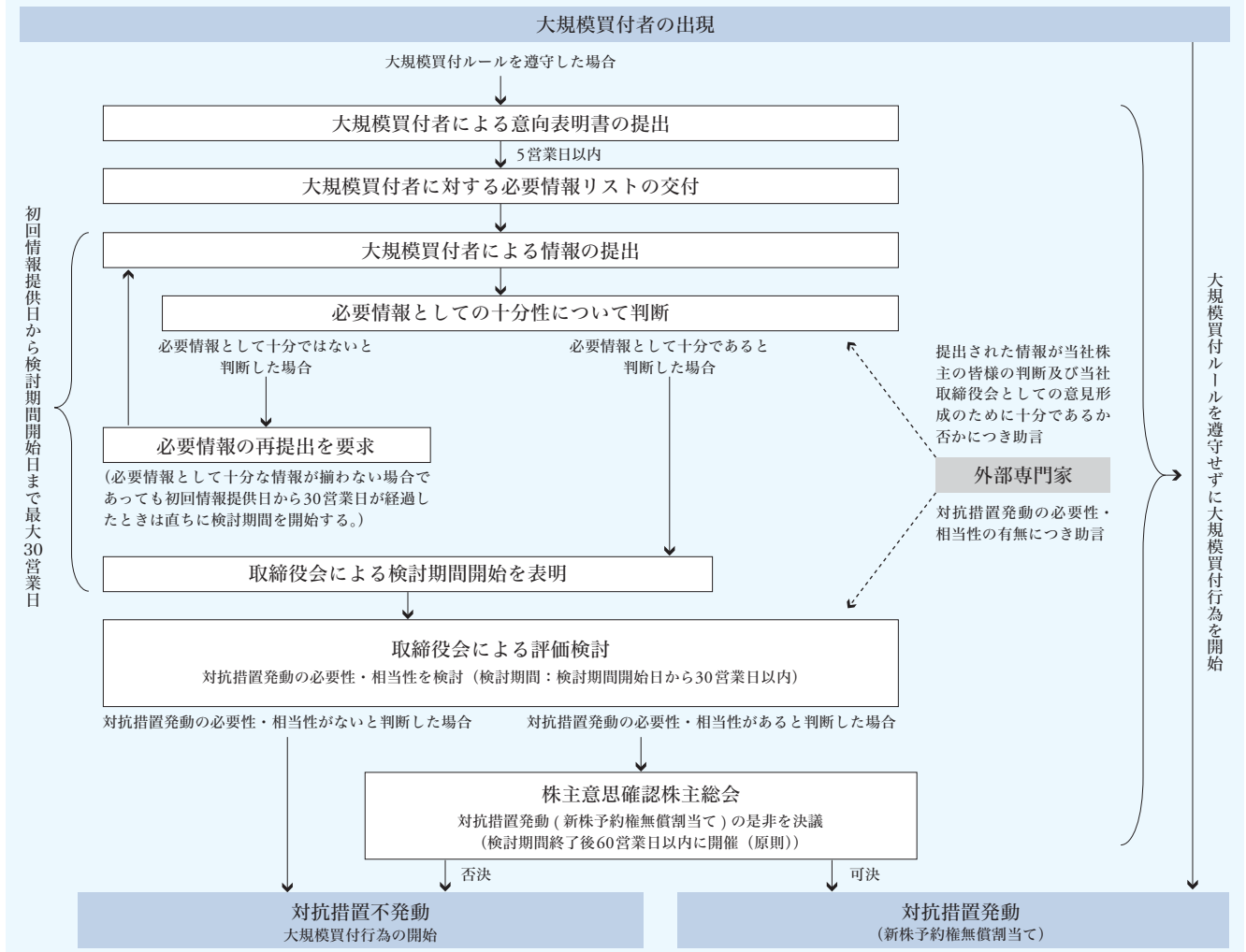
しかし、株主の皆様のご意思をより多く反映させることが株主の皆様との共同の利益の最大化に資するとの考えから、2007年5月15日開催の当社取締役会において、買収防衛策の導入を当社の株主総会にお諮りして株主の皆様のご決議に付すこと、および、対抗措置発動の判断は、原則として当社の株主総会での決議をもって執り行うこと、といった内容を有する買収防衛策に変更することを決議し、

同年6月28日開催の当社第96回定時株主総会において買収防衛策の導入が承認可決されました。その内容につきましては、当社ホームページ (<http://www.takara.co.jp/>) ならびに有価証券報告書において概要を掲載しておりますのでご参照願います。

なお、2010年6月29日開催の当社第99回定時株主総会において買収防衛策の一部変更および継続が承認可決され、さらに2013年6月27日開催の当社第102回定時株主総会において、その継続が承認可決されています。

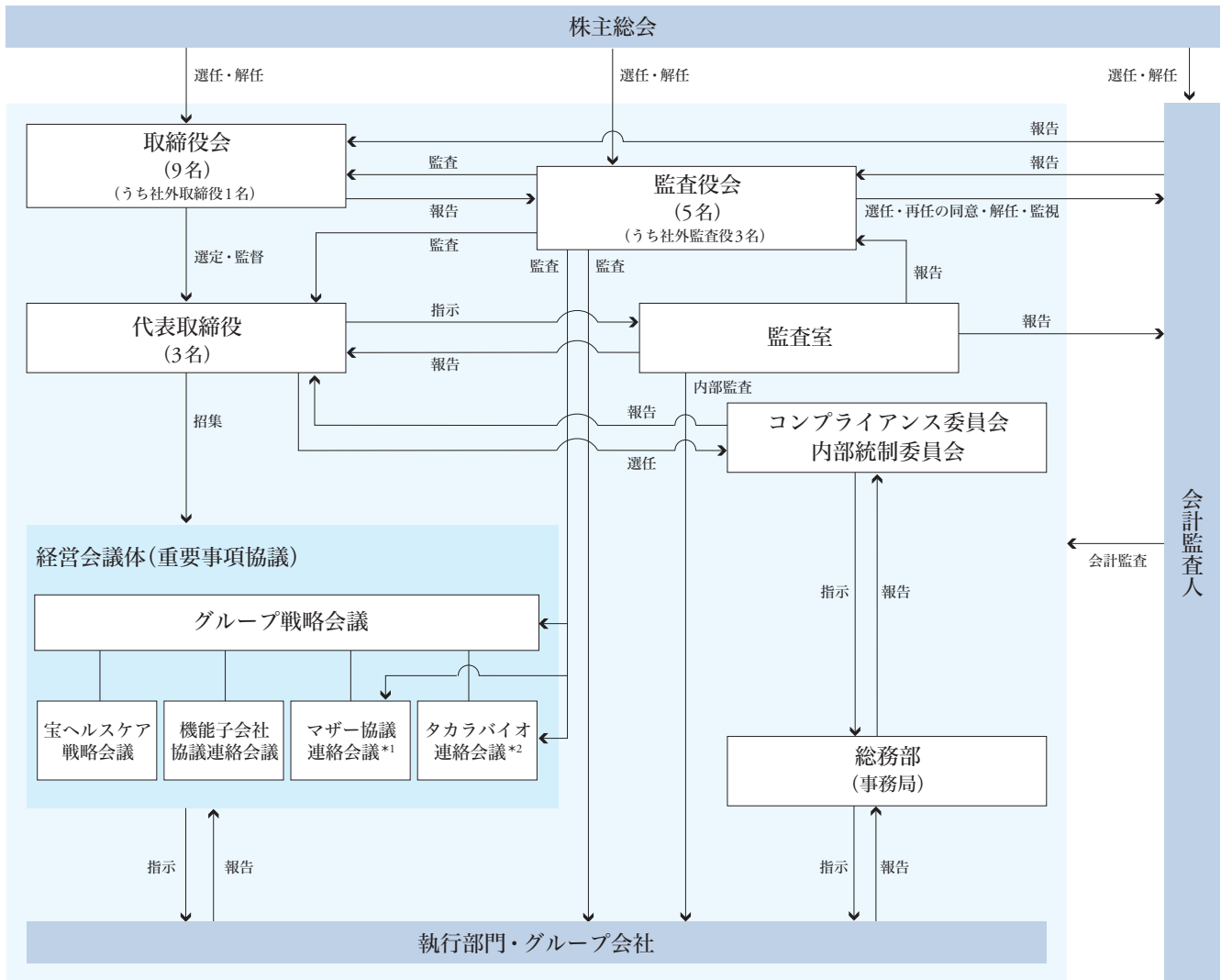
大規模買付ルール

- 1 当社取締役会に対して、事前に大規模買付行為に関する必要十分な情報の提出
- 2 (a) すべての大規模買付者は、検討期間開始日から30営業日を上限とする当社取締役会による評価検討が終了するまでは、大規模買付行為を開始してはならない
(b) 株主意思確認株主総会が開催される場合には、株主意思確認株主総会が終了するまで、大規模買付行為に着手してはならない



コーポレート・ガバナンス体制の模式図

(2013年6月27日現在)



*1 マザー(宝酒造グループ)協議連絡会議

*2 タカラバイオ連絡会議は、タカラバイオ(株)の業績・活動状況等の報告を目的としたものであり、同社の取締役会決議事項の事前承認等は求めておらず、同社の自主性・独立性を妨げるものではありません。

経営会議体の概要

グループ戦略会議

宝ホールディングス(株)の取締役、監査役ならびに宝酒造(株)・タカラバイオ(株)・宝ヘルスケア(株)の代表取締役で構成され、グループ経営方針、中・長期計画、年度予算、年度活動計画、年度投融资計画、配当政策、半期ごとの業績レビューなど、TaKaRaグループのグループ経営全体に関わる重要事項の協議を行っています。

マザー協議連絡会議

宝ホールディングス(株)の取締役、監査役ならびに宝酒造(株)の取締役、監査役、執行役員で構成され、宝酒造グループの運営・業務・財政状態・経営成績等に与える重要事項の決定や、重要事項の発生に対する対応などの特定事項に関する事前協議ならびに業績報告、活動報告を行っています。

タカラバイオ連絡会議

宝ホールディングス(株)の代表取締役、事業管理担当役員、経理担当役員、財務・IR担当役員、監査役ならびにタカラバイオ(株)の取締役、監査役、執行役員で構成され、タカラバイオ(株)の業績報告および活動報告を行っています。

宝ヘルスケア戦略会議

宝ホールディングス(株)の代表取締役、事業管理担当役員、経理担当役員、財務・IR担当役員、タカラバイオ(株)の代表取締役、医薬品バイオ担当役員および宝ヘルスケア(株)の社長で構成され、宝ヘルスケア(株)の運営・業務・財政状態・経営成績等に与える重要事項の決定や、重要事項の発生に対する対応などの特定事項に関する事前協議ならびに業績報告、活動報告を行っています。

機能子会社協議連絡会議

宝ホールディングス(株)の事業管理統括役員、事業管理担当役員、経理担当役員、財務・IR担当役員、および機能子会社(大平印刷、川東商事、宝ネットワークシステム)の社長で構成され、機能子会社の運営・業務・財政状態・経営成績等に与える重要事項の決定や、重要事項の発生に対する対応などの特定事項の事前協議ならびに業績報告、活動報告を行っています。

社外取締役インタビュー

植田 武彦 宝ホールディングス株式会社 社外取締役

社長交代から1年が経過しますが、ガバナンス面で変化したと
感じられるのはどのような点でしょうか？

引き続き強固なガバナンス体制が維持されています

そもそも当社グループを統治するガバナンス体制はしっかりと
確立されており、前社長の宮本会長が19年間にわたって築いて
きた厳しい社風、経営方針がその根底に貫かれています。社外
取締役として、社長交代後もこの体制が維持されるかといった
点に注視してまいりましたが、緩みが生じるようなことはなく、むしろ
柿本社長は業務執行面において、全社員に対して今まで以上
に緊張感とスピード感をもって仕事に取り組むことを強調して
いるように感じています。

現在、当社では長期経営ビジョンが明確にされ、その実現の
ための実行計画として中期経営計画も策定し、目標達成に向け
てまい進しています。その中で、タカラバイオグループは着実に利
益を伸ばしていますが、宝酒造グループは急激な円安に伴う輸
入原材料価格の高騰などにより厳しい状況におかれています。
柿本社長はこの事実をしっかりと見据え、上述のように業務執
行面でのガバナンス強化を強調しているものと思います。

取締役会や経営会議体において、社外取締役として
どのような視点からご質問・ご発言をされていますか？

企業価値向上のために、様々な角度から

一つひとつの案件を確認しています

取締役会や経営会議体においては、一つひとつの意思決定
事項などが企業価値を向上させるものかということに最大の関
心をもって臨んでいます。そのため、各案件について、背景・経
緯・理由・経済計算などを注意深く確認しています。

ところが、実際に提案・付議される案件については、敢えて質
問するまでもなく、これらの事項が資料として漏れなく添えられて
います。このことは組織としての意思決定プロセスが、様式も含
めてしっかりと確立されている証左であると思います。

また、年2回の監査役による担当役員へのヒアリング（部門
計画・予算の内容と進捗状況）にも出席しています。そこでも
企業価値の向上という観点から、さらに詳しく質疑を行い、時
には自らの経験に基づく意見なども述べています。各担当役員は、
当然のことながら自部門の状況を良く把握・理解しており、質疑
に対して懇切丁寧に回答してくださっています。

他にもコンプライアンス委員会、内部統制委員会に出席して
おり、これらの体制も十分に整備されています。重要な点は、
問題が起こった時にどれだけ臨機応変に対応できるかであり、



それは多分に担当責任者の手腕と力量にかかっていると思われ
ますので、その旨を指摘しつつ質疑を行っています。

TaKaRaグループのさらなる企業価値向上に向けて、事業面、
ガバナンス面において何が必要であると考えておられますか？

差異化された商品・サービスの特長をアピールし 利益率を向上させることが重要です

事業面では、既に大きな方針が示されているので、それを
着実に実行することに尽きます。当社は、独自の技術力で差異化
された商品・サービスを開発することでお客様のニーズを捉え、
売上高で2,000億円を超えるほどの市場を確保することができ
ています。今後は、売上の拡大と並行して、いかに利益率を向上
させていくかが重要となります。

当社の歴史を振り返ると、常に高い技術力で差異化された
商品・サービスを他社に先駆けて開発していますが、市場に対し
てその特長をもっとアピールしていく必要があると感じています。
そうすることで商品・サービスの付加価値をさらに高め、利益率
の向上に繋げていくことができると思います。

さらなる成長の実現に向けて提言を行っていきます

当社は、宝酒造、タカラバイオ、宝ヘルスケアという異なる
特性を持つ事業会社を中核にグループ経営を行っていますが、
経営会議体を通じて、各社の状況を把握し、企業グループとして
整合性のある意思決定を行うことができるように、ガバナンス
体制がしっかりと確立されています。さらに、絶えずステークホル
ダーの満足に繋がることを価値判断の根底に置く経営姿勢が貫
かれています。この体制に基づき、業務執行面において緊張感・
スピード感を一層強化することが重要であると考えています。

今後も、TaKaRaグループの強みやノウハウを活かし、さらなる
成長を実現できるよう、社外取締役として提言を行っていきたく
と考えています。

役員

2013年6月27日現在



大宮 久 (70歳)

宝ホールディングス株式会社
代表取締役会長
兼 宝酒造株式会社
代表取締役会長
兼 タカラバイオ株式会社
取締役会長

1968年 4月 当社入社
1974年 4月 開発部長
5月 取締役
1982年 6月 常務取締役
1988年 6月 専務取締役
1989年 7月 バイオ事業部門本部長
1990年 4月 東地区酒類事業部門本部長
1991年 6月 代表取締役副社長
1993年 4月 酒類事業部門本部長
6月 代表取締役社長
2002年 4月 宝酒造(株) 代表取締役社長
タカラバイオ(株) 取締役会長(現職)
2012年 6月 当社代表取締役会長(現職)
宝酒造(株) 代表取締役会長(現職)



大宮 正 (63歳)

宝ホールディングス株式会社
代表取締役副会長
(事業管理、財務・IR、
経理、環境広報統括)
兼 宝酒造株式会社
代表取締役副会長

2000年 2月 (株)富士銀行国際部参事役
5月 同行退職
6月 当社入社
2001年 4月 経営企画室長
2002年 4月 経営企画統括部長
宝酒造(株) 常務取締役
6月 当社取締役
2004年 6月 代表取締役副社長
2005年 6月 宝酒造(株) 専務取締役
2006年 6月 宝酒造(株) 代表取締役副社長
2012年 6月 当社代表取締役副会長(現職)
2013年 6月 宝酒造(株) 代表取締役副会長(現職)



柿本 敏男 (62歳)

宝ホールディングス株式会社
代表取締役社長
兼 宝酒造株式会社
代表取締役社長

1973年 4月 当社入社
2001年 4月 技術・供給企画室長
2003年 6月 宝酒造(株) 取締役
2004年 6月 宝酒造(株) 常務取締役
2010年 6月 当社代表取締役副社長
宝酒造(株) 代表取締役副社長
2012年 6月 当社代表取締役社長(現職)
宝酒造(株) 代表取締役社長(現職)



仲尾 功一 (51歳)

タカラバイオ株式会社
代表取締役社長
兼 宝ホールディングス株式会社
取締役

1985年 4月 当社入社
2002年 4月 会社分割に伴い、タカラバイオ(株) 取締役就任
2003年 6月 タカラバイオ(株) 常務取締役
2004年 6月 タカラバイオ(株) 専務取締役
2007年 6月 タカラバイオ(株) 代表取締役副社長
2009年 5月 タカラバイオ(株) 代表取締役社長(現職)
Takara Bio USA Holdings Inc.
代表取締役社長(現職)
宝生物工程(大連)有限公司 董事長(現職)
宝日医生物技术(北京)有限公司 董事長(現職)
6月 当社取締役(現職)
2010年 3月 Takara Korea Biomedical Inc.
代表理事会長(現職)

取締役

松崎 修一郎 (57歳)

宝ホールディングス株式会社

取締役 事業管理担当、財務・IR担当、経理担当

兼 宝酒造株式会社 専務取締役

1980年 4月 当社入社

2003年 4月 財務グループジェネラルマネージャー

2004年 4月 財務部長

2005年 6月 取締役(現職)

経理部長、IR室長

2007年 6月 財務部長

宝酒造(株) 取締役

2008年 6月 宝酒造(株) 常務取締役

2010年 6月 宝酒造(株) 専務取締役(現職)

岡根 孝男 (61歳)

宝ホールディングス株式会社

取締役 総務担当、人事担当、環境広報担当

兼 宝酒造株式会社 取締役

1977年 4月 当社入社

2001年 4月 東京事務所長

2003年 6月 日本合成アルコール(株) 常務取締役

2005年 6月 当社総務人事部長

2007年 6月 取締役(現職)

宝酒造(株) 取締役(現職)

中尾 大輔 (59歳)

宝ホールディングス株式会社

取締役

兼 宝酒造株式会社 代表取締役副社長

1976年 4月 当社入社

2001年 6月 取締役

2002年 3月 取締役退任

4月 会社分割に伴い、宝酒造(株)

常務執行役員就任

2004年 6月 宝酒造(株) 取締役

2006年 6月 宝酒造(株) 常務取締役

2009年 6月 当社取締役(現職)

宝酒造(株) 専務取締役

2013年 6月 宝酒造(株) 代表取締役副社長(現職)

伊藤 和慶 (52歳)

宝ホールディングス株式会社

取締役

兼 宝酒造株式会社 取締役兼常務執行役員

1985年 4月 当社入社

2008年 4月 宝酒造(株) 常務執行役員海外事業本部長(現職)

2013年 6月 当社取締役(現職)

宝酒造(株) 取締役(現職)

植田 武彦 (73歳)

宝ホールディングス株式会社

取締役(社外取締役)

兼 宝酒造株式会社 取締役(社外取締役)

1998年 6月 第一工業製薬(株) 代表取締役社長

2004年 6月 同社相談役

2007年 6月 当社取締役(現職)

宝酒造(株) 取締役(現職)

監査役

釜田 富雄 (63歳)

宝ホールディングス株式会社

常勤監査役

兼 宝酒造株式会社 監査役

兼 タカラバイオ株式会社 監査役(社外監査役)

1972年 4月 当社入社

2001年 4月 海外部長

2003年 11月 日新酒類(株) 取締役管理本部長

2007年 6月 当社常勤監査役(現職)

宝酒造(株) 監査役(現職)

2009年 6月 タカラバイオ(株) 監査役(現職)

山中 俊人 (52歳)

宝ホールディングス株式会社

常勤監査役(社外監査役)

兼 宝酒造(株) 監査役(社外監査役)

2012年 4月 (株)みずほ銀行営業店業務第三部長

2013年 4月 同行グループ人事部審議役

6月 同行退職

当社常勤監査役(現職)

宝酒造(株) 監査役(現職)

上田 伸次 (60歳)

宝ホールディングス株式会社

監査役

兼 宝酒造(株) 常勤監査役

兼 タカラバイオ(株) 監査役(社外監査役)

1976年 4月 当社入社

2001年 6月 秘書室長

2013年 6月 監査役(現職)

宝酒造(株) 常勤監査役(現職)

タカラバイオ(株) 監査役(現職)

三枝 智之 (57歳)

宝ホールディングス株式会社

監査役(社外監査役)

兼 宝酒造(株) 常勤監査役(社外監査役)

2011年 6月 農林中央金庫監事

2013年 6月 同金庫監事退任

当社監査役(現職)

宝酒造(株) 常勤監査役(現職)

北井 久美子 (60歳)

宝ホールディングス株式会社

監査役(社外監査役)

兼 宝酒造(株) 監査役(社外監査役)

2005年 8月 厚生労働省雇用均等・児童家庭局長

2007年 8月 同省退官

中央労働災害防止協会専務理事

2011年 5月 同協会理事退任

2011年 6月 当社監査役(現職)

宝酒造(株) 監査役(現職)

事業概要

宝酒造グループ

TaKaRaグループのコア事業である酒類・調味料事業の歴史は、1842(天保13)年までさかのぼります。以来170年にわたり、時代や消費者が求める価値観や嗜好に対して、常に独創的で確かな技術に裏付けられた安心できる商品を提供することを使命に活動を続けています。その商品カテゴリーは、焼酎、清酒、ソフトアルコール飲料、ワイン、ウイスキー、中国酒、調味料、原料用アルコールなど幅広く展開しており、また日本国内のみならず、米国、中国、欧州の子会社を通じて、グローバルな事業展開を行っています。

焼酎

長年培ってきた独自の技術によって、時代が求める焼酎を追求し市場を創造し続けてきました。甲類焼酎では、伝統と安心のNo.1ブランドの“宝焼酎”、樽貯蔵熟成酒を3%ブレンドしたひとクラス上の“極上<宝焼酎>”、ロングセラーの“宝焼酎「純」”などのブランドでトップシェアを堅持しています。本格焼酎では、芋100%の“全量芋焼酎「一刻者」”、麦本来の味わいを追求した“本格麦焼酎「知心剣」”などのこだわり商品、日常の晩酌ニーズに応える「よかいち」など、オリジナリティーある商品を発売・育成しています。



清酒

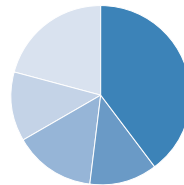
松竹梅は、「よろこびの清酒」として慶祝・贈答市場におけるトップブランドの地位を確立しています。2001年には、手造りの原理を再現した最新鋭の設備と人の手で行う酒造りの両方を併せ持つ松竹梅白壁蔵(神戸市東灘区)を完成させ、新感覚のスパークリング清酒“松竹梅白壁蔵「滲」”や“松竹梅「白壁蔵」<生酛純米>”などの高品質酒を送り出しています。また、晩酌市場では“松竹梅「天」”に新容器パウチパックを発売し、お客様の多様なニーズに応えています。業務用市場では“松竹梅「豪快」”が多くのお客様からご支持をいただいています。



ソフトアルコール飲料

とろとした口当たりと程よい果実の甘さが特長の新感覚リキュール“ジュレのお酒「果莉那-Carina-」”や、果実をすりおろしたような果汁感とすっきりした甘さが特長の果実入りチューハイ“タカラcanチューハイ「すりおろし」”など、話題性の高い新商

カテゴリー別売上構成比



■ 焼酎	39.8%
■ 清酒	12.3%
■ ソフトアルコール飲料	14.6%
■ 調味料	12.7%
■ その他	20.6%

品を発売し、独自のおいしさをお届けしています。また、1984年に日本初の缶入りチューハイとして発売し30年を迎えた“タカラcanチューハイ”、下町の大衆酒場で愛される焼酎ハイボールの味わいを追求した“TaKaRa「焼酎ハイボール」”など、こだわりの商品を開発・育成しています。



調味料

本みりんのトップブランドとして日本の食文化とともに進化・発展を続けてきた“タカラ本みりん”や、食塩0(ゼロ)の料理清酒“タカラ料理のための清酒”など、「お酒のチカラでもっとおいしく」をテーマに、料理をおいしく、食卓を豊かにする様々な酒類調味料をご提案しています。また、加工業務用市場に向けては、お総菜や加工食品などに適した酒類調味料やだし調味料などの商品を取り揃えるとともに、食品分析や調理効果研究、レシピ開発などお客様とともに様々な課題解決に取り組んでいます。



海外

おいしくヘルシーな食事として日本食が注目を浴びグローバル化するに伴って、清酒やみりんも普及しており、現在欧米やアジアを中心に世界40ヵ国以上の国々で清酒「松竹梅」、タカラみりんをはじめとする宝製品が親しまれています。海外で清酒やみりんを製造・販売する海外酒類事業と、欧州で日本食材の輸入卸を行う日本食材卸事業を展開しており、日本の酒類と食材を組み合わせた提案を通じて、日本の食文化をさらに世界に広めるとともに、海外の飲食店市場における新たな販路の獲得と拡大に取り組んでいます。



タカラバイオグループ

TaKaRa グループのバイオ事業の使命は、細胞・遺伝子治療など革新的な技術の開発を通じて、人々の健康に貢献することです。その実現を担うタカラバイオグループでは、技術および収益の基盤である「遺伝子工学研究事業」で安定的な収益を稼ぎ出し、「医食品バイオ事業」を第二の収益事業へ育成し、「遺伝子医療事業」に経営資源を投入して遺伝子治療・細胞医療の商業化を目指しています。

遺伝子工学研究事業

大学の基礎研究から創薬研究などの産業分野まで、世界中のバイオテクノロジー研究を支援しています。研究用試薬・理化学機器では、遺伝子増幅に利用する高性能のPCR酵素やリアルタイムPCR装置など、市場のニーズにマッチした製品を開発し、提供しています。また、遺伝子工学分野に加え、市場の拡大が見込まれる細胞生物学分野にも注力して研究開発を行い、中国で製造したコスト競争力の高い製品群を全世界に販売するとともに、技術的に補完関係のある企業との提携を推進し、グローバルマーケットにおける地位のさらなる向上に努めています。研究受託サービスでは、高速シーケンス解析、iPS細胞作製受託サービスなどの技術サービスに加え、解析によって得られた膨大なデータから有用な情報を引き出す次世代データマイニングなどの高付加価値サービスを提供しています。

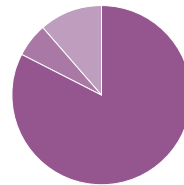


医食品バイオ事業

日本古来の食品素材の機能性をバイオテクノロジーで解析し、それらの素材を活かした健康食品の開発・製造を行っています。また、キノコの新品種育成や大規模栽培といった技術を活かし、キノコの生産販売などを展開しています。健康食品事業ではガゴメ昆布「フコイダン」、ボタンボウフウ「イソサミジン」、明日葉「カルコン」、寒天由来「アガロオリゴ糖」、ヤムイモ「ヤムスゲン®」、キノコ「テルペン」などの機能性成分を研究し、開発・製造した健康食品は宝ヘルスケア社を通じて消費者の皆様にお届けするほか、食品・飲料などの原料として、機能性食品素材を食品メーカーなどに提供しています。



カテゴリー別売上構成比



■ 遺伝子工学研究事業	82.7%
■ 医食品バイオ事業	6.0%
■ 遺伝子医療事業	11.3%

キノコ事業では、ホンシメジ、ハタケシメジ、ブナシメジの自社生産販売を行うほか、これらのキノコ菌株や大量生産技術のライセンスも行っています。



遺伝子医療事業

遺伝子工学研究事業で培ったテクノロジーを利用して、遺伝子医療に必須となる中核技術を開発し、その商業化を進めています。中核技術の一つは、血球系細胞への高効率遺伝子導入を可能とする「レトロネクチン法」で、全世界にライセンスアウトしており、体外遺伝子治療における遺伝子導入法のスタンダードとなっています。二つ目の中核技術は、生体内での生存能力が高く、抗原認識能も高いナイーブT細胞を多く含む細胞集団が大量に得られる「レトロネクチン®拡大培養法」で、遺伝子治療や細胞医療に用いられています。三つ目の中核技術は、ベクターや遺伝子導入細胞のGMP製造（医薬品の製造管理、品質管理基準に準拠した製造）技術であり、体外遺伝子治療の治験を国内で唯一実施した実績があり、遺伝子治療の臨床開発のための薬事関連ノウハウも保有しています。また、自社プロジェクトとしても、がんやエイズの遺伝子治療・細胞医療の臨床開発を進めるほか、がん免疫細胞療法に関する支援事業として、医療機関に対する細胞加工技術支援サービスの提供や、細胞医療用培地・バッグの販売などを行っています。



連結財務ハイライト

3月31日終了事業年度

期間項目	単位：百万円 ^(注1)					単位：千米ドル ^(注2)
	2013	2012	2011	2010	2009	2013
売上高	¥200,989	¥198,690	¥189,769	¥190,525	¥192,790	\$2,138,180
宝酒造グループ	176,946	175,503	166,790	166,969	169,301	1,882,404
タカラバイオグループ	20,564	19,578	18,737	19,325	18,913	218,765
宝ヘルスケア	2,008	2,338	2,567	2,486	2,853	21,361
その他(連結消去含む)	1,469	1,269	1,673	1,743	1,722	15,627
売上原価	123,630	121,462	115,480	115,805	118,849	1,315,212
売上総利益	77,359	77,228	74,289	74,719	73,941	822,968
販売費及び一般管理費	68,225	67,963	65,953	66,146	65,090	725,797
営業利益(損失)	9,133	9,264	8,335	8,572	8,851	97,159
宝酒造グループ	6,387	6,768	6,568	7,129	7,465	67,946
タカラバイオグループ	1,691	1,547	1,097	553	426	17,989
宝ヘルスケア	(22)	(114)	(252)	(316)	(356)	(234)
その他(連結消去含む)	1,076	1,063	921	1,206	1,315	11,446
税金等調整前当期純利益	9,256	8,590	7,505	8,208	8,193	98,468
当期純利益	4,687	3,995	3,788	4,677	5,639	49,861
有形固定資産の減価償却費 及びその他の償却費	4,973	5,209	5,384	5,652	5,992	52,904
資本的支出	5,282	5,330	3,735	3,645	3,616	56,191
研究開発費	3,090	3,027	3,076	3,665	3,343	32,872
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,967	9,013	9,462	10,452	8,954	84,755
投資活動によるキャッシュ・フロー	(3,672)	(4,779)	(11,323)	(7,350)	(7,769)	(39,063)
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,229	(3,265)	(3,199)	(3,219)	(9,294)	13,074
フリー・キャッシュ・フロー ^(注3)	4,295	4,233	(1,861)	3,102	1,184	45,691
期末項目						
総資産	¥207,586	¥197,437	¥192,448	¥195,495	¥190,792	\$2,208,361
有利子負債	43,098	38,493	38,881	39,162	39,092	458,489
純資産	114,318	107,659	106,895	109,206	105,316	1,216,148
自己資本	100,040	94,783	94,308	96,666	93,093	1,064,255
1株当たり(単位：円)：						(単位：米ドル)
当期純利益	¥ 23.01	¥ 19.32	¥ 18.21	¥ 22.20	¥ 26.32	\$0.24
純資産	493.14	461.41	454.21	459.92	437.42	5.24
配当金	9.00	9.00	8.50	8.50	8.50	0.09
指標(単位：%)：						
総資産当期純利益率	2.3%	2.0%	2.0%	2.4%	2.8%	—
自己資本当期純利益率	4.8	4.2	4.0	4.9	5.8	—
自己資本比率	48.2	48.0	49.0	49.4	48.8	—
配当性向	39.1	46.6	46.7	38.3	32.3	—
株主還元性向 ^(注4)	58.9	51.7	58.6	60.6	79.0	—

(注) 1. 百万円未満は切り捨てにより算出しております。

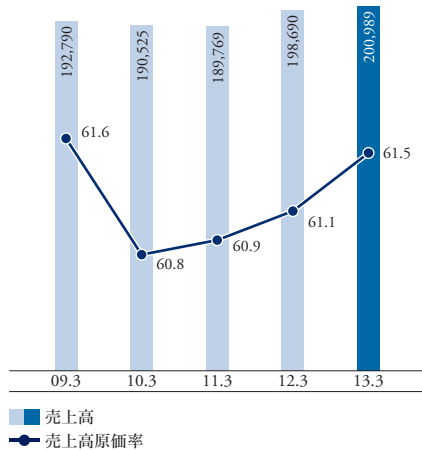
2. 米ドルは2013年3月31日現在のレートの近似値94円/ドルで便宜換算しております。

3. フリー・キャッシュ・フロー＝営業活動によるキャッシュ・フロー＋投資活動によるキャッシュ・フロー

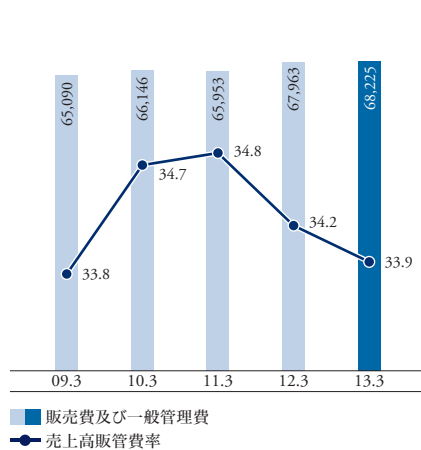
4. 株主還元性向＝「株主還元総額(配当総額＋自己株式取得総額)」÷「みなし連結当期純利益*」

*みなし連結当期純利益＝(連結経常利益－受取利息・配当金＋支払利息)×(1－法定実効税率)

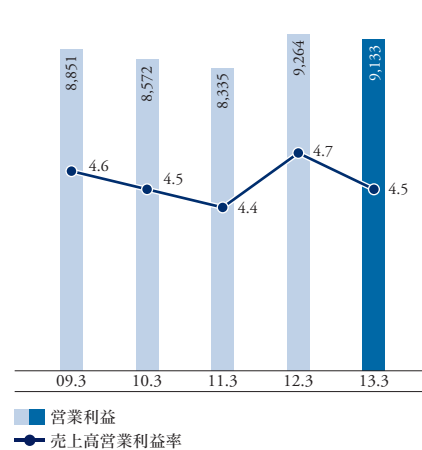
売上高・
売上高原価率
(百万円/%)



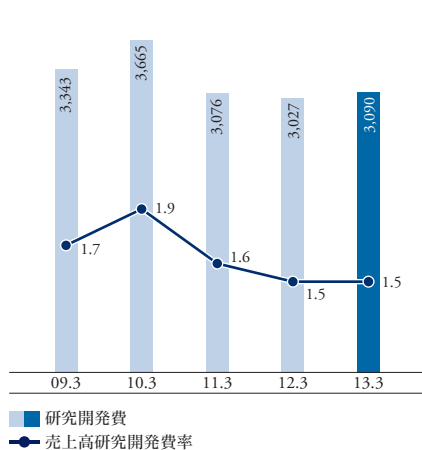
販売費及び一般管理費・
売上高販管費率
(百万円/%)



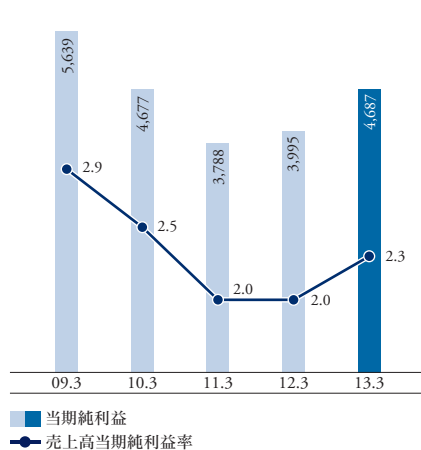
営業利益・
売上高営業利益率
(百万円/%)



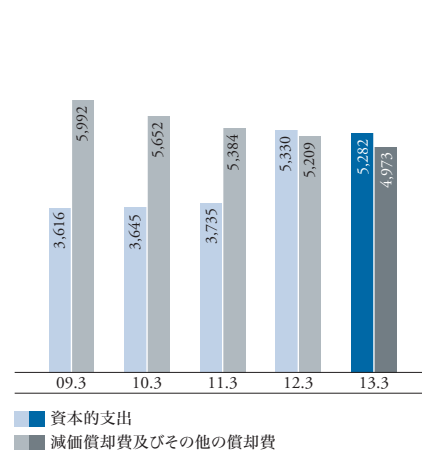
研究開発費・
売上高研究開発費率
(百万円/%)



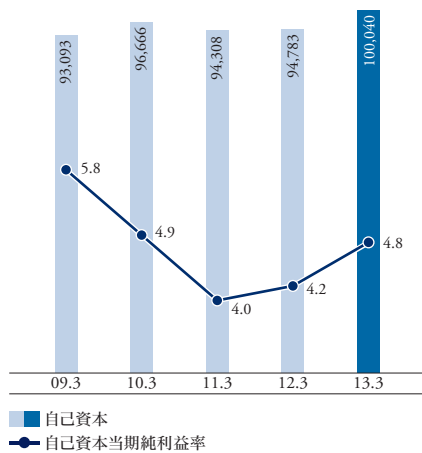
当期純利益・
売上高当期純利益率
(百万円/%)



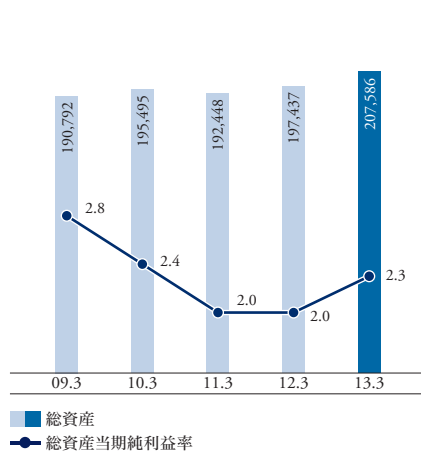
資本的支出・
減価償却費及びその他の償却費
(百万円)



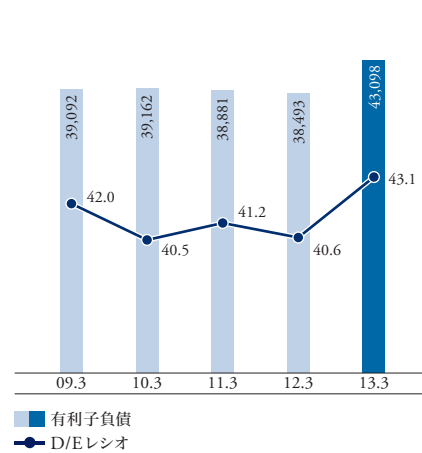
自己資本・
自己資本当期純利益率
(百万円/%)



総資産・
総資産当期純利益率
(百万円/%)



有利子負債・
D/Eレシオ
(百万円/%)



D/Eレシオ=有利子負債÷自己資本×100

主要子会社データ

2013年3月31日現在

会社名	所在地	資本金	議決権の 所有割合	主な事業内容
宝酒造株式会社	〒600-8688 京都府京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20 TEL 075-241-5110【お客様相談室】TEL 075-241-5111	1,000百万円	100.0%	酒類、調味料、原料用アルコールの製造・販売

宝酒造株式会社の連結子会社

タカラ物流システム株式会社	〒610-0343 京都府京田辺市大住浜55-13 TEL 0774-68-1720	50百万円	(100.0%)	運送業、倉庫業、自動車整備業、 損害保険代理業、旅行業等
タカラ長運株式会社	〒850-0075 長崎県長崎市西泊町22-38 TEL 095-894-8701	250百万円	(100.0%)	運送業、通関業、倉庫業等
工学エンジニアリング株式会社	〒812-0016 福岡県福岡市博多区博多駅南1-3-11 TEL 092-483-0031	10百万円	(100.0%)	上下水処理施設の設計・施工、機械プラント工事の 設計・施工等
小牧醸造株式会社	〒895-1816 鹿児島県薩摩郡さつま町時吉12 TEL 0996-53-0001	16百万円	(50.0%)	焼酎の製造・販売
株式会社ラック・コーポレーション	〒107-0052 東京都港区赤坂3-2-12 TEL 03-3586-7501	80百万円	(100.0%)	ワイン輸入販売
タカラ物産株式会社	〒612-8338 京都府京都市伏見区舞台町9 TEL 075-601-6267	10百万円	(100.0%)	飼料販売
タカラ容器株式会社	〒612-8061 京都府京都市伏見区竹中町609 TEL 075-605-4540	30百万円	(100.0%)	容器卸売業
株式会社トータルマネジメントビジネス	〒612-8061 京都府京都市伏見区竹中町609 TEL 075-623-2660	20百万円	(100.0%)	マーケティングに関する調査、販促企画、 人材派遣事業
Takara Sake USA Inc. (米国)	708 Addison St., Berkeley, CA 94710, U.S.A. TEL 510-540-8250	7,000千米ドル	(90.0%)	酒類製造・販売
Age International, Inc. (米国)	229 W.Main St., Frankfort, KY 40602, U.S.A. TEL 502-223-9874	250千米ドル	(100.0%)	バーボンウイスキーの販売
The Tomatin Distillery Co., Ltd. (英国)	Tomatin, Inverness-shire, IV13 7YT Scotland, U.K. TEL 1463-248-148	3,297千ポンド	(80.6%)	スコッチウイスキーの製造・販売
宝酒造食品有限公司 (中国) (英文名: Takara Shuzo Foods Co., Ltd.)	506 Room, Huatengbeitang Commercial Tallbuilding No.37 Nanmofang Road, Chaoyang District, Beijing, China 100022 TEL 10-5190-0975	130,000千元	(62.0%)	酒類、調味料、原料用アルコールの製造・販売、 宝酒造グループ製品の輸入販売
上海宝酒造貿易有限公司 (中国) (英文名: Shanghai Takara Shuzo International Trading Co., Ltd.)	Room 105, Building 12, No.505, Zhong Shan Nan Road, Shanghai, China 200010 TEL 21-6152-6623	4,896千元	(100.0%)	宝酒造グループ製品の輸入販売、 中国優良製品の輸出
FOODEX S.A.S. (仏国)	4, impasse des Carrières 75016 Paris, France TEL 1-4647-4439	250千ユーロ	(80.0%)	酒類・食品・調味料等の輸入・卸売業
タカラバイオ株式会社	〒520-2193 滋賀県大津市瀬田三丁目4番1号 TEL 077-543-7212	9,233百万円	70.4%	研究用試薬、理化学機器の製造・販売、研究受託 サービス、遺伝子治療・細胞医療の商業化、健康 食品、キノコの製造・販売

タカラバイオ株式会社の連結子会社

瑞穂農林株式会社	〒622-0313 京都府船井郡京丹波町保井谷三ツ枝38	10百万円	(49.0%)	キノコの製造・販売
有限会社タカラバイオファームセンター	〒891-4207 鹿児島県熊毛郡屋久島町小瀬田810-9	3百万円	(48.3%)	明日葉などの農作物の生産・販売
株式会社さきのこセンター金武	〒904-1201 沖縄県国頭郡金武町字金武9006	5百万円	(49.0%)	キノコの製造・販売
宝生物工程(大連)有限公司(中国)	No.19 Dongbei 2nd Street, Development Zone, Dalian, China 116600	2,350百万円	(100.0%)	研究用試薬の開発・製造・販売
Takara Bio Europe S.A.S. (仏国)	2, avenue du president Kennedy, 78100 St Germain en Laye, France	600千ユーロ	(100.0%)	研究用試薬の販売
Takara Korea Biomedical Inc. (韓国)	Lotte New T Castle 601, 429-1, Gasam-dong, Gumchun-gu, Seoul, 153-803, Korea	3,860百万ウォン	(100.0%)	研究用試薬・理化学機器の販売
宝日医生物技術(北京)有限公司(中国)	Life Science Park, 22 KeXueYuan Road Changping District, Beijing, China 102206	1,030百万円	(100.0%)	研究用試薬・細胞医療用培地・バッグの販売
Clontech Laboratories, Inc. (米国)	1290 Terra Bella Avenue, Mountain View, CA 94043, U.S.A.	83千米ドル	(100.0%)	研究用試薬の開発・販売
DSS Takara Bio India Private Limited (インド)	A-5 Mohan Co-op Industrial Estate, Mathura Road, New Delhi, 110044, India	45百万ルピー	(51.0%)	研究用試薬の販売

宝ホールディングス株式会社の連結子会社

宝ヘルスケア株式会社	〒604-8166 京都府京都市中京区三条通烏丸西入御倉町85-1 TEL 075-229-6901	90百万円	100.0%	健康食品の製品開発・販売
大平印刷株式会社	〒612-8338 京都府京都市伏見区舞台町1 TEL 075-605-3330	90百万円	100.0%	印刷業
宝ネットワークシステム株式会社	〒600-8688 京都府京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20 TEL 075-241-5139	30百万円	100.0%	情報システム開発・運用・管理
川東商事株式会社	〒612-8338 京都府京都市伏見区舞台町9 TEL 075-601-5211	30百万円	100.0%	酒類販売、不動産賃貸

(注) 議決権の所有割合の括弧書きは間接所有割合

投資家情報

2013年3月31日現在

商号	宝ホールディングス株式会社	設立	1925年9月6日
事業内容	持株会社	資本金	13,226百万円
本店所在地	京都市下京区四条通烏丸東入 長刀鉾町20番地	代表者	代表取締役社長 柿本 敏男
電話	075-241-5130	ホームページアドレス	www.takara.co.jp

株主メモ

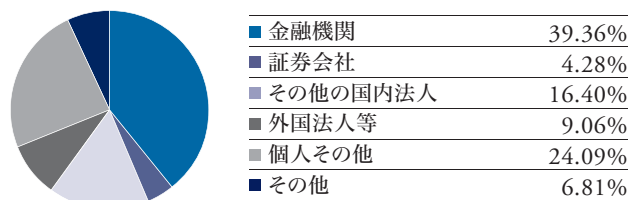
発行株式	
発行可能株式総数	870,000,000株
発行済株式総数	217,699,743株
株主数	26,706名
上場取引所	東証1部
証券コード	2531
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務連絡先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話0120-288-324 (フリーダイヤル)
株主総会	定時株主総会は、毎年6月に京都で開催されています。その他、必要のある場合には少なくとも2週間の事前通告をもって、臨時株主総会が開かれる場合があります。
独立監査人	有限責任監査法人トーマツ

大株主 (上位10名)

氏名又は名称	所有株式数 (千株)	所有株式数の 割合 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	13,906	6.39
株式会社みずほコーポレート銀行	9,738	4.47
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	9,705	4.46
農林中央金庫	9,500	4.36
明治安田生命保険相互会社	5,370	2.47
株式会社京都銀行	5,000	2.30
国分株式会社	3,489	1.60
宝グループ社員持株会	3,216	1.48
日本アルコール販売株式会社	3,000	1.38
三井住友信託銀行株式会社	2,753	1.26

(注) 1. 所有株式数の千株未満は切り捨てております。
2. 上記のほか、当社は自己株式を14,833,716株 (所有株式数の割合は6.81%) 保有しております。
3. 「三井住友信託銀行株式会社」の所有株式数には、信託業務に係る株式数は含んでおりません。

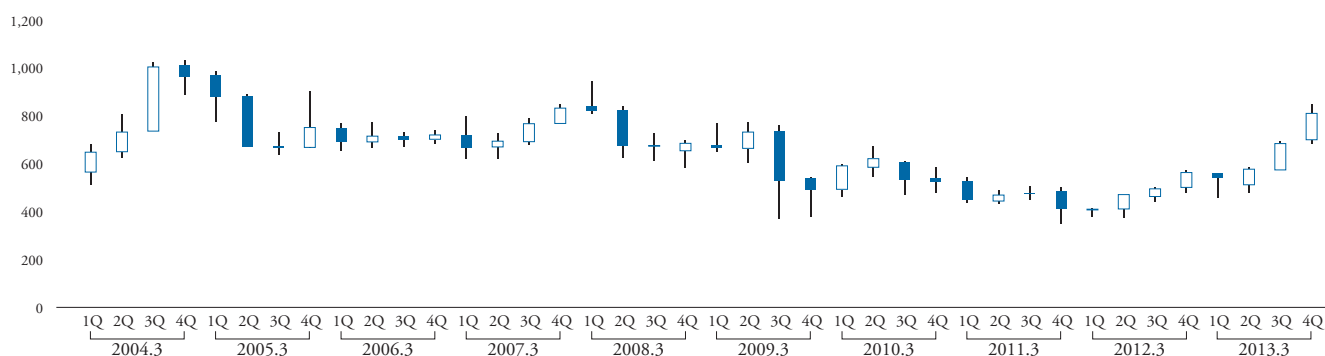
所有者別株式分布状況

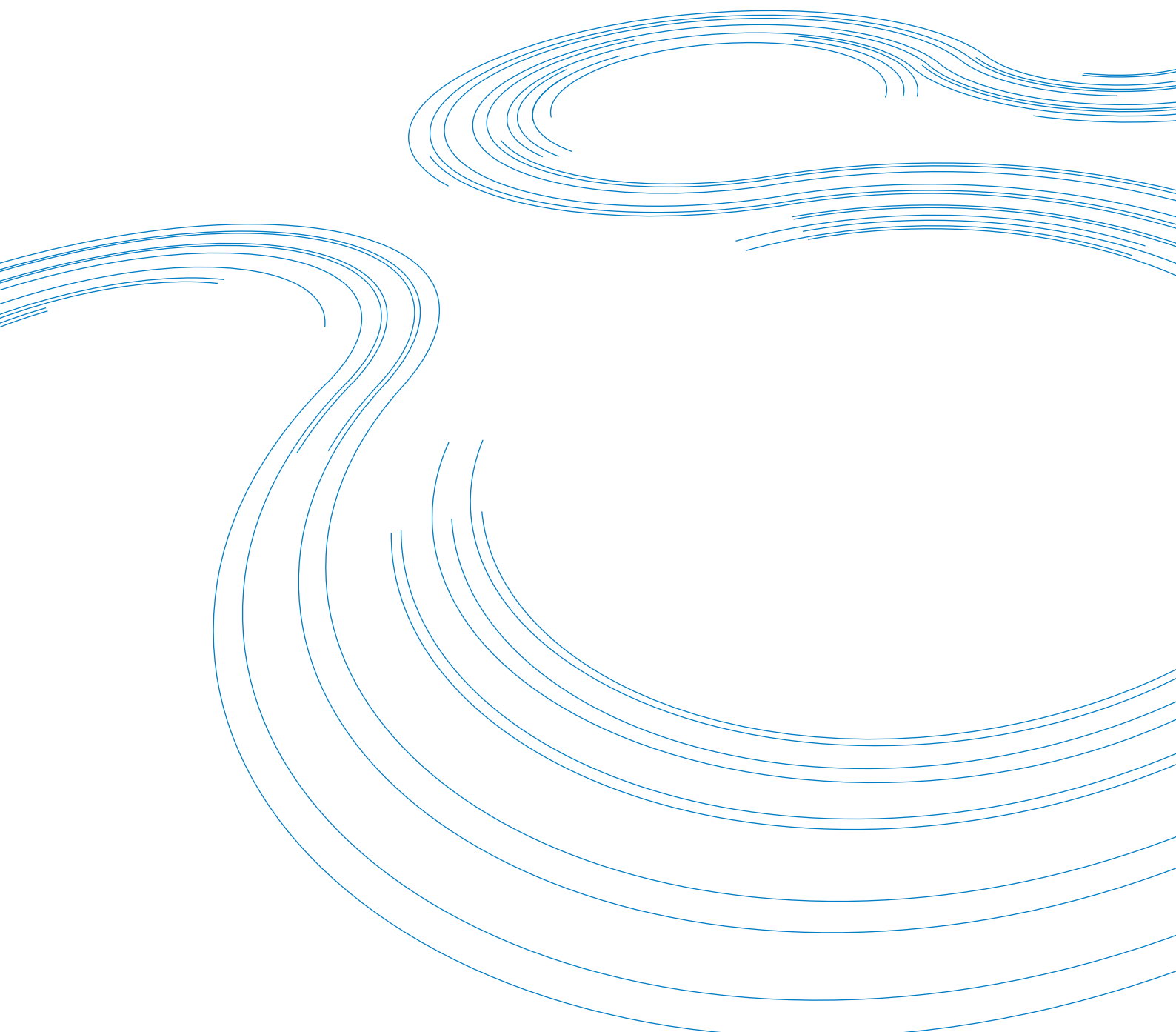


格付

格付機関	長期格付	短期格付
格付投資情報センター (R&I)	A / 安定的	a-1
日本格付研究所 (JCR)	A / 安定的	J-1

株価の推移 (円)





宝ホールディングス株式会社

京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20番地

Phone: (075) 241-5130

www.takara.co.jp



この用紙費用の一部は『日本赤十字社』に寄付されております。
この印刷物は環境に配慮し、植物油インキ・水なしオフセット印刷で制作しております。
この印刷物は京都エコポイントモデル事業でカーボンオフセットされた電力を使用して印刷しております。